

児童館等における「遊びのプログラム」の開発・普及に係る調査研究業務 中間報告

一般財団法人 児童健全育成推進財団

1 当初計画の概要

(1) 目的

優れた「遊びのプログラム」を調査・収集し、その健全育成上の効果等を分析して実施マニュアルを作成する。

(2) 企画・検討委員会

本事業の実施に際しては、有識者による企画・検討委員会を設置し、専門的助言を受ける。

① 設置期間と開催回数

設置期間 平成 29 年 05 月から、平成 30 年 03 月まで

開催回数 7 回程度

② 検討内容

- ・「遊びのプログラム」としてモデル的に実施するプログラムの選定
- ・モデル実施児童館の選定
- ・モデル的に実施した「遊びのプログラム」の効果検証
- ・「遊びのプログラム」のマニュアルの作成
- ・本事業の調査研究報告書の作成

③ 委員

学識経験者、児童館従事者・経験者等から、5 名程度選定する。

(3) 事業内容

① 「遊びのプログラム」、及びプログラムアドバイザーの選定

本財団が研修・研究・出版等の事業を通じて蓄積してきた児童館等における様々な実践プログラムの中から、優れた「遊びのプログラム」を選定し、その実践者をプログラムアドバイザーとして委嘱する。

② 「児童館・遊びのマルシェ」の開催

プログラムアドバイザーを召集し「遊びのプログラム」を紹介してもらう。マニュアルのパイロット版を示しつつ、その実施方法や注意点、ねらい等を含めて、ポスターセッション、ワークショップ等の形式で行う。「児童館・遊びのマルシェ」には研修として全国から参加者を募集する。

③ 遊びのプログラムの実施

「児童館・遊びのマルシェ」参加者の中から協力児童館を 40 箇所程度選定し「遊びのプログラム」を実施してもらう。必要に応じてプログラムアドバイザーに訪問指導してもらう。

④ 児童への効果の検証とマニュアルの作成

協力児童館には、マニュアルのパイロット版に対する意見をもらう。これらを踏まえて、一般の児童館等で遊びのプログラムを効果的に実施するためのマニュアルを作成する。

2 進捗状況

(1) 企画・検討委員会の実施

① 開催日

- 第1回 平成29年6月2日(金) 15:30～17:30 児童健全育成推進財団会議室
- 第2回 平成29年6月14日(水) 14:30～16:30 //
- 第3回 平成29年7月19日(水) 14:30～16:30 //
- 第4回 平成29年8月23日(水) 14:30～16:30 //
- 第5回 平成29年9月13日(水) 13:00～14:30 国立オリンピック記念青少年総合センター
- 第6回 平成29年12月5日(火) 10:00～12:00 児童健全育成推進財団会議室
- 第7回 平成29年12月5日(火) 13:00～15:00 //
- 第8回 平成29年12月15日(金) 13:00～15:00 //
- 第9回 平成30年3月開催予定
- ※他に、プログラムアドバイザーの児童館への視察・ヒアリングを行う。

② 企画・検討委員(50音順)

安部芳絵(工学院大学 准教授)

植木信一(新潟県立大学 人間生活学部子ども学科 教授)

阪野大介(愛知県児童総合センター 主査)

柳澤邦夫(栃木県上三川町立上三川小学校 校長)

(2) 実施内容

① 「遊びのプログラム」、及びプログラムアドバイザーの選定【6月下旬～8月下旬】

児童館ガイドラインに対応した優れたプログラムを選定するとともに、全国の児童館に公募をした。

その上で、選定した「遊びのプログラム」プログラムに通じた児童厚生員等に本事業のプログラムアドバイザーを委嘱した。

実施マニュアルに掲載する「遊びのプログラム」と、各プログラムに応じたプログラムアドバイザーは次頁の通り。

マニュアルに掲載する遊びのプログラムとプログラムアドバイザー一覧

No.	プログラム名／内容	プログラムアドバイザー
1	異年齢での運動遊び 狭い児童館のホールでも異年齢が存分に身体を動かして楽しめる「しまおに」や、チーム対抗で夢中になって遊べる伝承遊び「Sケン」など、子どもたちが主体的に楽しく取り組める様々な運動遊び。	仙台市館児童センター 渡邊 由貴 仙台市木町通児童館 齊藤 寿一郎 (公財) 仙台ひと・まち交流財団 村上 敏康
2 ①	どんぐりマーケット どんぐり等の木の実を貨幣に見立て、来館者が出品した工作物を購入するお買い物ごっこ。木の実は珍しいものほど価値が高い。身近な自然を発見し、近隣の山などを訪れ様々な木の実に興味をもつきっかけともなる。	神戸市六甲道児童館 館長 金坂 尚人 八木 千波 大谷 幸子
②	防災段ボールキャンプ 防災意識の向上を目的に、段ボールで家を作って児童館等で1泊する。宿泊（緊急避難）の持ち物は子どもが自分で考えて準備する。当日それをみんなで確認し、危機管理について学びあい、相互に防災意識を高めあう。	
3 ①	リアル野球盤 段ボールで作ったリアルサイズの野球盤。スロープから転がしたボールを子どもたちがゴルフのように打つ。	台東区松が谷児童館 館長 水野 かおり 森 龍之介
②	あおむけビーチボールサッカー 身近なサッカーを誰でも楽しめるようにアレンジし、苦手な子どもでも親しみやすくなる。	
③	屋外での木工作 近隣の材木店から材料を提供してもらい、町会、青少年委員、民生児童委員など、地域の協力を得ながら児童館が近所の公園で開催する。「下町こども工房」として区内全児童館が実施している。	
4	五感を使った野遊び 身近な自然の中で、忍者となり、目や鼻など五感を使った修行（遊び）を通して生き物や植物の面白さや不思議にふれ、野外で遊ぶきっかけを作る。季節の自然素材を使いながら想像力を育み、表現の楽しさを発見する。	新潟県立こども自然王国 梅田 広美 梅田 貴仁 茂野 未来美
5	小麦粉粘土でまち作り ブルーシートの上に小麦粉粘土で思い思いに道や建物などを作っていき、参加者同士が交流しつつ「まち」として発展させていく。プログラムを通じて、小学生と乳幼児、及びその親との交流も狙う。	札幌市金山児童会館 館長 大口 智 服部 未夢 奥田 幸代
6 ①	脱出ゲーム 館全体を使った謎解き脱出ゲーム。ストーリーの中で謎解きをしていくことで、緊張感やグループでの達成感を感じ、また想像力を働かせながら遊ぶ体験となる。仲間づくりや、父親の子育て参加促進のためのプログラムとして展開している。	愛知県児童総合センター 高阪 麻子 阪野 大介

②	ジブンの処方箋 ビーズやどんぐりで薬をつくる→薬の名前や効能などを自分で書き込み処方箋を書く（タノシクナールA等）→薬と処方箋を薬袋にいれて、もらって帰る。遊びをとおして自分の気持ちを整理したり、誰かに伝えることで、自分を見つめなおす。	
③	イクメン応援プロジェクト クッキング、スポーツ、ボードゲーム、立体工作など父親が子どもとともに参加し、存分にに関わりあい、父親ならではの力を発揮して楽しめるプログラムをシリーズで実施する。父親の仲間作りを進めるとともに、主体性を引き出すことを目的とする。	
④	「家族のうれしい顔」写真 セルフタイマーを使って家族で写真を撮るコーナーを用意しておく。ポーズを考えたりタイマーがうまく作動せず手間取ったりしながら、にぎやかに写真を撮ること自体を楽しんでもらう。家族で来館するきっかけになり、写真展にすれば再度来館してもらうきっかけにもなる。	
7	コマ相撲夏場所 コマをカシに見立てて、土俵を模したコマ床の上で誰かと長生き勝負をし、「星取表」に金星を増やしていく。「星取表」には「序二段」から「横綱」まで10ケのマス目が描かれている。「横綱」まで昇進したら「星取表」の裏に「手形スタンプ」と「しこ名のサイン」を書き、開催期間中児童館内に掲示することができる。	品川区大原児童センター 竹部 正人 品川区北品川児童センター 井原 茜
8	自由ラジオ 子どもたちのコミュニケーション能力育成を目指して開局した自由ラジオ局。高校生ボランティアと職員がサポートしつつ、企画、取材、台本作り、BGM選び、ナレーション、CM作りと、すべての過程を子ども主体で取り組む。	いわて子どもの森 長崎 由紀 菅 智美 佐藤 星河
9	中高生向けアウトドアお泊り会 児童館でお泊り会をしたいという希望に応えるため、「キャンプ」を実施すると共に、自然体験活動へ誘う機会とする。	練馬区平和台児童館 館長 柴田 俊明
10	中高生タイムスペシャル 中高生の居場所作りや自立支援を目的として、従来の「中高生タイム」を時間延長して学習支援や食事支援を行う。中高生が主体的に取り組めるよう、クッキングやレクリエーション等、中高生自身の企画も盛り込む。	杉並区善福寺児童館 黄 崇傑 大学生ボランティア 館林 大 田島 えみ 食事コーナー代表 能登山 明美
11 ①	赤ちゃんハイハイレース 子育てを始めたばかりの親たちに児童館を知ってもらうことを目的として実施する。集まった親たちには、子育てに関連する様々な情報もお伝えする。	松山市北条児童センター 山下 洋一郎 松山市南部児童センター 森田 洋喜
②	児童館 OB・OG によるボランティア かつて児童館を利用していた大学生世代に「同窓会」と称して集ってもらい、旧交を温めつつ、児童館での主体的なボランティア活動へつなげる。	松山市久枝児童館 黒田 泰士

12	小学生と乳幼児親子とのふれあい 子どもたちは命の大切さを知り、自分も親から愛されたことを振り返る。親は自分の育児を語ることで、改めて我が子に対する愛着を深める。	戸塚児童センターあすばる 館長 澤田 幸江 杉浦 真美
13	愛着を育てる「人育ち唄」 日本に伝わる赤ちゃんのあやし唄をベースとした、0歳の愛着形成を促すためのかわり遊び。小中高生が赤ちゃんに触れ合い、交流するツールとしても有効な、都内児童館で人気のプログラム。	NPO法人 子ども家庭リソースセンター 理事 永田 陽子 片岡 容子 米本 昌子 安増 千明
14	児童館遊び塾 3～6年生の組織活動。毎週一回の登録している児童の定例活動。ボール遊びやレクリエーション、ボランティア活動等幅広い活動を行う。その中でも月に一回クリーン作戦と称して地域の公園等のゴミ拾い活動を行う。名称は「すみだ遊び塾」。	フレンドリープラザ 墨田児童会館 館長 八重田 裕一郎 中山 羽菜
15 ①	ビデオムービーづくり 子どもたちの意向に沿ってスタッフが館のビデオカメラで撮影する。6秒に編集し、100本集まるまで館内のテレビモニターで流す。100本集まったら締め切り、投票でグランプリを決める。プログラムのタイトルは「めざせ！6秒動画100連発」。	港区麻布子ども中高生プラザ 館長 佐野 真一
②	職員による「自分の世界」企画 夏の間、週1回、職員が持ち回りでプログラムを企画・実施する。各職員の専門性や個性が最大限にされた「人に着目したプログラム」となるために、テーマや対象は自由。名称は「AZA夏タイム」。	
16 ①	就労体験型まつり（子どものまち） 子どもによる子どものための「子どものまち」ごっこ遊び。綿あめ、工作、ゲーム、ハローワーク、市役所など、様々なお店で遊ぶだけでなく、子ども自身がホスト役になって働く。	八王子市中野児童館 館長 井垣 利朗 八王子市北野児童館 館長 永井 太 八王子市元八王子児童館 山鹿 淳子
②	中高生が教える科学実験 葉脈標本作りや、カルメ焼き作りなど、中高生が主体的に科学プログラムを企画し、小学生に向けて実施する。小学生・中学生・高校生のいい交流の機会ともなっている。	
17	農園経営ごっこ 「おいしいよ農園」という会社を設立し、様々な企画を子ども達が考えて取り組む。社長、副社長、専務などの役職も子ども達が担う。野菜や米作りから商品化、販売までの一連の活動や町内の文化祭で販売したり児童館で収穫祭を行ったりする。	金沢市浅野町児童館 三浦 啓子 竹田 恭子
18	多文化交流クッキング 外国にルーツを持つ母親に「皮から作る餃子講座」等、得意メニューで親子クッキングの講師をお願いする。それを通じて、子ども同士の仲間づくりが促進されることを狙う。	燕市小中川児童館 館長 大橋 美樹 酒井 啓子 児童研修館「こどもの森」 館長 神保 一江

19	とりとかえっこ屋 使わなくなったおもちゃの交換をメインにした「子どものまち」遊び。大型児童館では1日のイベントだったが、小型児童館では1週間継続して実施する。遊びながら、経済の仕組みや労働の意味を学ぶことができる。	草加市氷川児童センター 館長 下村 一 練馬区立平和台児童館 土屋 奈津子
20	TV 番組作り 地元ケーブルテレビの協力を得つつ、地域を紹介する番組作りに挑戦する。子どもたち自身が、ディレクター、カメラマン、リポーターなどを担い、編集作業も行。地元ケーブルテレビの協力を得つつ、館の活動を紹介する番組作りに挑戦する。メディアリテラシーに加えて、責任感と団結力を育む。	福岡市中央児童会館あいくる 副館長 片本 仁 諫山 大輔 堤 博之
21 ①	こどもヘルパー活動 高学年児童のボランティア活動の第一歩、児童館とその周辺の地域の施設を拠点に子どもたち自身が考えて、児童館行事の参画や異世代交流、募金や防災活動、報告会を行う取り組み。	神戸市落合児童館 館長 古田 説子 指導員 浜野 里香 神戸市須磨区社会福祉協議会 主幹 池本 貴子
②	キッズクラブ（預かりっこ） 親同士が交代で子どもを世話、預かりあいをする。安心して子どもと分離し、リフレッシュの機会を設け、育児ストレスの解消と子育て力の向上を目指す。	
22 ①	ハロウィン・パーティー 仮装遊び。放課後児童クラブ登録児童と自由来館児童とが分け隔てなく参加でき、やがて児童館を支える子どもボランティアの一員としても育てるプログラム。	仙台市岩切児童館 館長 羽賀 崇子 岩渕 優 志賀 善之
②	新春おまつり遊び 児童クラブの子どもが中心となり、自由来館児童、地域が分け隔てなく遊ぶプログラム。生活とともにあった民族芸能や和の音に出会い新春の喜びを皆で祝う。	
23	子ども食堂 貧困対策と同時に子どもたちの自立支援を目指して、大人と子どもと一緒に料理して食べる「食堂」イベントを実施する。あわせて、余った食材を集めて有効利用するフードドライブや、子どもたち自身によるお弁当クッキング等、食育に関連するプログラムも実施する。	松本市寿台児童館 竹内 亜哉 設楽 秀子 NPO 法人ワーカーズコープ 松本事業所 所長 伊藤 由紀子
24	ゆんたく広場 障がいのある子を持つ親の会 子どもの発達のこと、困っていること、気になること、気軽におしゃべりができる場をもうける。その他、障がいのある子の家庭支援を多く行う。	うるま市 みどり町児童センター 館長 山城 康代 うるま市いしかわ児童館 玉那覇 優子 うるま市屋慶名児童館 森根 明日向
25 ①	何もしないプログラムのプログラム（室内環境編） 児童館を子どもにとって居心地のいい、行ってみたい場所にするために『おもてなしの心』や『コミュニケーション』を意識しながら工夫し、ハッピーオーラのある場所に整えていく。	久万高原町 NIKONIKO館 大堀 純子

②	何もしないプログラムのプログラム（出会い編） 児童館で、地域と出会える場を提供し、さりげないサポートの中で、個々が活躍できるように地域と共に連携する。
③	ほっと・カフェ 児童館のひと部屋を地域カフェにすることで、すべての人が気軽に集える居場所となる。また、そこで出会った人がお互いに刺激しあい、元気をもらい、大切にできるようになる。

② 「児童館・遊びのマルシェ」の開催

「遊びのプログラム」の波及と、マニュアルそのもののブラッシュアップを目的として「児童館・遊びのマルシェ」を開催した。当日はパイロット版（試作）マニュアルを配布し、プログラムアドバイザーが直接ブースでの説明や体験ワークショップを行った、全国の児童館から募集し、250名の参加があった。

また、前日にはプログラムアドバイザーを召集した事業説明会を開き、本事業の趣旨を理解していただいた。

- ▶ 期日：平成29年9月13日（水）10時～16時30分
- ▶ 会場：国立オリンピック記念 青少年総合センター 国際会議室、他

③ トライアル児童館の選定とプログラムのトライアル実施【9月中旬～1月】

「遊びのマルシェ」で紹介したプログラムを年内に試行的に実施する児童館を公募した（トライアル児童館）。

トライアル児童館は、パイロット版マニュアルを参考にプログラムを実施、マニュアルをより汎用性のあるものにするために改善点等のフィードバックを行った。また、各プログラムアドバイザーは、実施に向け、直接トライアル児童館を訪問し、企画会議への出席や、当日の運営支援など、実施までのサポートを行った。

遊びのプログラム トライアル児童館一覧

No.	プログラム名	トライアル児童館
1	異年齢での運動遊び	・ にこにこ浜っ子クラブ（岩手県大船渡市）
2	① どんぐりマーケット	・ 西日暮里二丁目ひろば館（荒川区） ・ 児童研修館「こどもの森」（新潟県燕市）
	② 防災段ボールキャンプ	・ K F J すかいぎっず（川崎市） ・ 寿台児童館（長野県松本市）
3	① リアル野球盤	・ 戸塚児童センターあすばる（埼玉県川口市） ・ 岩切児童館（仙台市）
	② あおむけビーチボールサッカー	・ 久留米市児童センター（福岡県） ・ 日の出町志茂町児童館（東京都）
	③ 屋外での木工作	・ キッズランド児童館（鹿児島県南さつま市）

4	五感を使った野遊び	・ 県立いわて子どもの森（岩手県一戸町）
5	小麦粉粘土でまち作り	・ 鶴巻児童館（仙台市）
6	① 脱出ゲーム	・ 南大谷児童館（東京都八王子市） ・ みどり町児童センター（沖縄県うるま市）
	② ジブンの処方箋	・ にこにこ浜っ子クラブ（岩手県大船渡市） ・ 日の出町志茂町児童館（東京都）
	③ イクメン応援プロジェクト	・ 善福寺児童館（杉並区） ・ 浅野町児童館（石川県金沢市）
	④ 「家族のうれしい顔」写真	・ 六甲道児童館（神戸市） ・ 小中川児童館（新潟県燕市）
7	コマ相撲夏場所	・ 岩切児童館（仙台市） ・ 善福寺児童館（杉並区）
8	自由ラジオ	・ 氷川児童センター（埼玉県草加市） ・ 落合児童館（神戸市）
9	中高生向けアウトドアお泊り会	・ 中央児童センター（愛媛県松山市）
10	中高生タイムスペシャル	・ 北条児童センター（愛媛県松山市）
11	① 赤ちゃんハイハイレース	・ 志津児童センター（千葉県佐倉市） ・ 花の木ひろば館（荒川区）
	② 児童館 0B・0G によるボランティア	・ 京ヶ瀬児童館（新潟県阿賀野市）
12	小学生と乳幼児親子とのふれあい	・ 梁田こども館（栃木県足利市）※検討中
13	愛着を育てる「人育ち唄」	・ 志津児童センター（千葉県佐倉市）
14	児童館遊び塾	・ K F J すかいきっず（川崎市）
15	① ビデオムービーづくり	・ 野川こども文化センター（川崎市） ・ 宇福寺児童館（愛知県北名古屋市）
	② 職員による「自分の世界」企画	検討中あり
16	① 就労体験型まつり（子どものまち）	・ 飯島南児童センター（秋田市）
	② 中高生が教える科学実験	・ 小中川児童館（新潟県燕市） ・ 蒲江児童館（大分県佐伯市）
17	農園経営ごっこ	・ 三和児童館（石川県金沢市）
18	多文化交流クッキング	・ 東部児童館（愛知県東郷町）
19	とり+かえっこ屋	・ 熊野前ひろば館（荒川区） ・ 京ヶ瀬児童館（新潟県阿賀野市）
20	TV 番組作り	・ 県立こども自然王国（新潟県柏崎市）
21	① こどもヘルパー活動	・ 蒲江児童館（大分県佐伯市）
	② キッズクラブ（預かりっこ）	・ 戸塚児童センターあすばる（埼玉県川口市）

22	①	ハロウィン・パーティー	・ 横代児童館（北九州市）
	②	新春おまつり遊び	・ 弥生児童館（大分県佐伯市） ・ 中野島こども文化センター（川崎市）
23		子ども食堂	・ 蒲江児童館（大分県佐伯市） ・ 浜岡中央児童館（静岡県御前崎市）
24		ゆんたく広場 障がいのある子を持つ親の会	検討中あり
25	①	何もしないプログラムのプログラム（室内環境編）	12 月に追加したプログラムのため実施なし
	②	何もしないプログラムのプログラム（出会い編）	〃
	③	ほっと・カフェ	〃

④ 効果の検証とマニュアル（案）の作成【～3 月】

作成中のマニュアルは別紙に添付した。

別紙

15-① ビデオムービーづくり ～めざせ6秒動画100連発～

創造力と自己表現力を培う動画制作

子どもたちから6秒で収まる動画を募集します。集まった動画を館内で放映し、100本集まったら、投票によってグランプリ作品を決めるというプログラムです。子どもたちの創造力と自己表現力が培われるとともに、保護者に児童館で活動する子どもたちの様子を伝える手段にもなります。

【リーダーチャート】

スタッフ:3
地域:4
福祉:4
参画度:5
取り組みやすさ:3

ねらい ▶ 子どもの育ちにどう関係するのか？

- 子どもの**自由な自己表現**を可能にする機会とする。
- 豊かな創造性**を育む機会とする
- より身近で**気軽な参加・参画の機会**とする。
- 保護者などに、**児童館でいきいきと活動**する姿を見てもらう機会とする。

実施条件 ▶ 必要な「人」、「こと」、「もの」など

【対象年齢】 小学生～高校生

【参加する人数の目安】 何人でも可
※個人でも、グループでの参加でも可

【必要なスタッフ数】 1人

【設備/環境】 特になし

【実施時期】 いつでも可

【備品/道具】

★ビデオカメラ

★ビデオ機材

※子どもでも使用できるもの

★動画を放映するモニター

★編集ソフト

※編集ソフトは、パソコンに標準的にインストールされているソフトを使用してもよりが、「VideoPad」等、フリーウェアでダウンロード出来るソフトが便利。

【総予算】

約●●●●●円

事前準備

◆子どもたちへの告知活動を開始します。

・職員や子どもに声をかけ、本プログラムのコマーシャル用の6秒動画を撮影します。

・コマーシャル用の6秒動画を使い、プログラムの告知を行います。告知に関しては、ポスターで行ってもよいでしょう。**告知期間は●週間**とします。

・職員は、数多くの子どもたちに声をかけ、施設全体で気運を盛り上げていくようにします。

進め方

①6秒動画作品を受け付けます。

・子ども達が「6秒動画を撮りたい」と職員に声をかけてきたら、ビデオカメラで撮影を行います。その際、少しアドバイスも入れながら、子どもと一緒に内容を考えるようにします。

・撮影した作品は、なるべく早く6秒に編集し、館内のモニターで放映します。

・応募作品数をリアルタイムで掲示し、100本到達に向けた目標を常に意識できるようにします。

②投票を開始します。

・100本集まったら受付を締め切り、投票期間を告知します。**投票期間は、●週間くらいがよいでしょう。**

・職員たちで第1次審査とを行い、100本の作品を10本程度に絞り込みます。

・第1次審査を通過した作品を、再び館内モニターで**●週間ほど**放映します。

・館内モニターで流れている作品を見て、気に入った作品に投票できるよう、**投票箱、投票用紙、ペン**を準備しておきます。

・投票は1日1回までとし、毎日投票してもよいルールにします。

③グランプリ作品を発表します。

館内モニターやポスター等で、グランプリ作品を発表します。

ポイント

◆「やってみたい！」と子どもが思ったときの瞬間を捉えることが大切です。

本プログラムにおいて重要なことは、子どもが気軽に参加できることです。子どもたちは日常の中で「これ面白いでしょ?」、「こんなことが出来るんだぜ」など、「見てもらいたい」、「伝えたい」といった思いを、幾度となく芽生えさせています。その思いが芽生えた瞬間を逃すことなく、キャッチすることが大切です。したがって、職員は、どんなに多忙でも、子どもから「撮って!」と言われたときは、笑顔ですぐに対応するようにしましょう。なお、職員にとって、「撮影」はさほどの負担にはなりませんが、「編集」は一定の負担になります。したがって、できるだけ多くの職員が編集作業を行えるよう、ノウハウを共有しておくといでしょう。

◆次第に高まる参加意欲を捉えましょう。

最初は動画が集まりにくいものです。しかし、バスケットボールやドミノなど、子どもたちが日常の中で遊んでいる動画が徐々に集まり、それが放映され始めると、皆がそれを真似し始めます。自分が活躍している姿が放映され、皆に見てもらえることは、恥ずかしさ半分、うれしさ半分なのです。こうした、子どもたちの自然な参加意欲の高まりを確実に捉え、プログラムを活性化し、より多くの子どもたちの参加へとつなげていきます。

◆職員はファシリテーターとして関わるようにします。

作品数が増えてくると、似たような作品が多くなります。また一度作品を作った子どもは、楽しさに味をしめて何度も応募してきます。したがって、1作目の作品は無条件で受け入れますが、2作目からは職員が作品づくりに少し介入するようにします。子どもの発想や行動力を上手く引き出し、そこに技術的なアドバイスなども加え、より質の高い作品づくりを目指すことが大切です。このように職員がファシリテーターの役割を担うことで、子どもたちの中で表現したいことがだんだんと具体的になっていきます。

発展

◆子どもたちの日常における生き生きとした姿を、一定期間館内のテレビモニターで流すことで、来館した保護者の方たちに、児童館の楽しさを伝える役割を果たすことができます。そういう意味では、日常の記録映像としての資料価値もあると考えられます。

◆子どもたちから投稿される動画は時間の長さがまちまちなので、6秒で切っても意味が分かるものであればバツサリと6秒で切り、動きの流れでどうしても6秒で切れないものは、再生速度をかえて早送りにするなど、なるべく子どもたちの意向に沿うような形で編集していきます。早送り自体が面白い効果なので、なんでもない動画でも面白くすることができます。また、慣れてきたら効果音やエフェクトなどを入れると、さらに盛り上がります。

◆館内での撮影にとどまらず、地域に出向いて撮影することで、**地域とのつながりを築ける可能性もあります。**

考察

子どもの表現活動は、ダンスや演劇等がポピュラーです。この活動形態の多くは練習や準備が必要になりますから、どうしても、「誰でも気軽に参加」というわけにはいかないのが実際です。しかし、**遊びそのものを「子どもの自己表現」と捉えるなら、それは児童館で過ごす子どもたちの日常と密接に関係していると考えられます。**

今回はビデオ撮影という「簡単に手軽な自己表現」を手段とすることで、できるだけ多くの子どもたちが「やってみたい!」と思う機会をつくりました。そして、自分が表現したことをみんなに見てもらい、それが他の子どもたちの欲求を刺激し、より豊かで、創造性に富んだ自己表現への機会とつながるように計画しました。児童館の日常の様々な機会、様々な場面で表出する**子どもの自己表現を、職員が敏感に捉え、それを継続性のあるプログラムへと結び付けていくことが重要**だと考えています。



安全への配慮

・個人情報の関係で、動画を館内のみで放映する場合でも、写っている本人と保護者の同意を得る必要があります。

【プログラムアドバイザー】

東京都港区 麻布子ども中高生プラザ 館長 佐野真一

15-② 職員による「自分の世界」企画

多様な職員による多様なプログラム

夏休みなどに期間限定で行う、職員の個性や専門性を最大限に活用した特別プログラムです。スポーツ活動、創作活動、遊び、ゲーム、児童文化等の活動を1日1回、「AZA夏タイム」として30分～1時間程度実施します。

【リーダーチャート】

プログラムにより各項目への関わり度が異なるため記載なし。

ねらい ▶ 子どもの育ちにどう関係するのか？

- 職員一人一人の個性と魅力を子どもたちに伝え、職員と利用者がプログラムを通して結びつく機会とする。
- 夏休み等、期間限定のプログラムとして実施することで、その期間の魅力づけを行う。
- 職員の専門性の有効活用及びトレーニングの機会とする。

実施条件 ▶ 必要な「人」、「こと」、「もの」など

【対象年齢】 幼児～高校生

【参加する人数の目安】 10～30人程度

※人数はプログラムによって異なるが、最低10人程度は集まるプログラムになるよう実施する。

【必要なスタッフ数】 1～2人

【設備/環境】 特になし

【実施時期】 夏休み期間中

【備品/道具】

各プログラムによって異なる

【総予算】

各プログラムによって異なる

事前準備

各プログラムの準備は、担当職員に任せますが、職員のモチベーションを高め、質の良いプログラムを実施するために、次の点に留意します。

◆本プログラムの目的や意義を職員に理解してもらいます。

◆内容は、スポーツ、ゲーム、創作、音楽等どんなジャンルでも可とします。職が専門性を活かしたり、新しい事にチャレンジするなどの姿勢が大切です。

◆実施日の2～3日前には、担当職員から上司等にプログラム内容を報告してもらうようにします。

◆職員の技能や経験によっては、2人組み等で行うことも可とします。

進め方

①実施期間の1か月程度前に、職員に本プログラムについて告知します。その際に、実施の日時、ペアがいる場合はペアも発表します。

②それぞれの実施日の2～3日前に、上司は担当職員から報告を受け、内容を把握しておくようにします。その際、修正が必要な場合はアドバイスをを行い、内容を修正してもらいます。

③実施の当日は、子どもたちに告知を行い、多くの子どもたちに参加してもらえるよう、施設全体で取り組みます。

④プログラム実施中は、担当上司が運営内容をチェックするよう努めます。

⑤プログラム終了後は反省会を行い、次につなげます。

ポイント

◆担当職員は忙しい中で、0からプログラムを考え、それを自分で実行することになるので、通常のプログラム運営より責任が重く、ストレスを感じるが多くなります。上司は進行状況を確認するなど、職員の状況を把握できるよう努めることが大切です。

◆個人の裁量でプログラムを計画していくため、内容の深まりに欠ける、無理がある等のケースもあります。上司は、進行状況の確認を行いながら、適宜、アドバイスを行ってください。

◆本プログラムは、上司が職員の仕事に対する意欲や技能を把握する機会にもなります。計画から実施までの職員の取り組み状況をよく観察し、職員育成に反映させましょう。評価のポイントは次を参考にしてください。

- ・働く意識や意欲、責任感
- ・チームワーク(報告、連絡、相談の状況等)
- ・知識(プログラムの目的の内容設定等)
- ・技能やセンス(指導技術や状況に対する感受性等)

発展

◆本プログラムは、原則的に1回限りのプログラムですが、実施当日の子どもの反応や上司の判断によって、定期的に実施するプログラムに発展させることも可能です。

◆定期的なプログラムとして実施する場合には、職員個人ではなく組織的な取り組みが必要です。そうすることによって、内容の深化が可能になります。

考察

児童館で行われるプログラムは、あらかじめ定められた年間の目標に沿って、「いつ、どの時期に誰に向かって、何をやるか」が計画されます。専門職が行う児童健全育成事業は、当然のことながらこうした「目的性と計画性」を持ち、組織的に取り組む事が重要になります。しかし、その一連のプロセスが形骸化してくると、プログラムのマンネリ化を招くことがあります。特に歴史のある児童館で、ベテラン職員が多いと、「これをやれば絶対大丈夫」という定番を持っているので、どうしても新しい事にチャレンジにくい状況になりがちです。今回紹介したこの取組は、事業の「目的性と計画性」というタガを一旦外すことで、**プログラムに自由度を与え、新しいプログラムの創造と形骸化した事業計画プロセスに刺激を与える**ことになります。

また、「ねらい」にもあるように、職員育成の視点も重要です。地域に密着した児童館は、プログラムの魅力よりも職員の魅力のほうが重要だと考えます。そのためには**個性あふれる、魅力ある職員を育成することが、管理職の重要な役割**だと考えます。現代の若い職員の多くは、自分の個性をアピールしたり、新しい事にどんどん取り組んだりすることが苦手なように感じます。この取り組みは、こうした若手職員に、自由にのびのびと仕事に取り組む機会を、そのプロセスを上司が観察、評価することで魅力ある職員養成につながると考えています。また、管理職の職員育成能力の向上にもなると思われます。



安全への配慮

・各プログラムによって配慮するポイントは異なりますが、職員が企画・運営する内容を上司が把握し、危険がないかどうかを常に客観視することが大切です。

【プログラムアドバイザー】

東京都港区 麻布子ども中高生プラザ 館長 佐野真一

2-② 防災ダンボールキャンプ

防災意識を高める遊び体験

【リーダーチャート】
スタッフ:0
地域:4
福祉:1
参画度:5
取り組みやすさ:4

震災を知らない子ども・家庭を対象にした、防災意識を高めるためのプログラムです。ダンボールを使ったキャンプという遊び体験を通して、自分で考え、工夫する機会をつくり、「あたりまえ」を「ありがたい・ありがとう」に変えることで、防災に対する意識を高めていきます。

ねらい ▶ 子どもの育ちにどう関係するのか？

- 震災を経験していない子どもたち(家族)が、**防災を身近に捉えることができる**ようダンボールを使った宿泊体験を実施し、防災について考え・知る機会とする。
- 震災経験者とつながることで防災意識が高まる。**
- 持ち物の指示を行わず、**必要なものを自分(家族)で考えリュックに準備**し、キャンプ終了後、必要だと思ったものを荷物に追加し、各家庭の『非常用持ち出し袋』とする。
- 子どもだけでなく、保護者も事業の一部に参加してもらい、災害時を意識し、**避難場所の確認や非常時の家族の連絡方法などを再確認**する。
- 欲しいものが簡単に手に入る環境、困ったらすぐに大人が手伝ってくれる環境から意図的に離すことで、**子ども同士で協力・工夫**し、「あたりまえ」を「ありがたい・ありがとう」に変える。
- 知識や体験を重視するのではなく、「失敗体験」=「こうするとうまくいかないという発見体験」を通じ、**状況に応じて工夫する力を育む**。

実施条件 ▶ 必要な「人」、「こと」、「もの」など

【対象年齢】小学生以上とその家族

【参加する人数の目安】親子20組 (宿泊場所の広さによる)

【必要なスタッフ数】スタッフ2名、地域ボランティア数名

【設備/環境】宿泊できる場所
(児童館や学校体育館など)

【実施時期】あまり寒くなりすぎない時期が望ましい

【備品/道具】

* 児童館側で準備するものとしてチラシで周知しておく

★ダンボール

→1人につき、どれくらいサイズのダンボールをいくつくらい準備するのか記載が必要

★ガムテープ (紙製)

→布製ガムテはNGということでしょうか？また、これも、必要個数を記載したほうが親切だと思います。例)2人で1巻

★新聞紙

→「1人あたり●日分の新聞」といった表記を入れる

★飲料水

→「1人あたり●リットル」といった表記を入れる

★乾パン

→「1人あたり●個」といった表記を入れる

【総予算】

約●●●●円

事前準備

◆チラシを作成し、開催の案内と参加者の募集をします。その際、下記が必須の記載事項となります。

- ・ダンボールハウスをつくり室内で宿泊をする
- ・トイレは使用可能
- ・児童館側で準備するもの一覧
- ・上記一覧に記載されているもの以外は、自分または家族と一緒に必要なものを考え、リュック1つにまとめて持参する

注)児童館から「〇〇を持って来てください」の指示はしないでください。なお、持参する内容に正解はありません。

進め方

①導入(親子で参加)

下記のような質問で家族の防災意識を確認します。

「被災した経験のある人は？ ない人は？」
「自分の家の避難場所を知っていますか？」
「連絡をとれない場合の家族の集合場所は？」

②『持ってきたもののなあに？』(親子で参加)

参加者全員で輪になって座り、各自、持参したものを自分の前に広げます。その際、人に見せたくないものはリュックに入れたままでよいことを伝えます。

↓

自分が持参したものの中から、おすすめのものを一人ずつ発表していきます。

↓

ライターやマッチなど、火が付くものを持ってきている子どもがいる場合は、安全のため、スタッフが帰宅時まで保管します。



③『親子防災プログラム』(親子で参加)

≪六甲道児童館実施例≫

■防災ダック (防災教育用カードゲーム)

カードゲームで子どもたちにわかりやすく災害時(地震・火事・洪水・津波等)の対応を伝えます。

※カードは日本損害保険協会にて購入可能

<http://www.sonpo.or.jp/news/publish/education/0008.html>



「防災ダック」は未就学児でも参加することができるゲームです

■あの日の風景/現在の風景

阪神淡路大震災時の写真を見せて、それが現在のどこの場所なのか、どのように変わったのかを皆で意見を共有します。また震災を経験しているボランティアスタッフや保護者に当時の様子を話してもらいます。

■新聞紙で作る防災グッズづくり

小学生が考えた新聞スリッパを紹介し、実際に作ってみます。ここではあえて片足分しか作らず、後のダンボールハウスづくりの際にもう片足分を作るよう促します。



足を保護したり、防寒用に役立ちます。使用する新聞紙の枚数増やすことで強度を高めることもできます

■防災バッククッキング

限られた水や汚れた水で、温かい食事をつくる方法を紹介し、皆でつくり、試食します。

④保護者帰宅 (これ以降は子どものみで行う)

ダンボールハウスづくりなどの様子はブログやSNSなどで随時投稿し、保護者の皆様が子どもの様子を確認できるようにします。

⑤グループ分け

ダンボールハウスを作る際のグループ分けは、子どもたちに任せます。1人でチャレンジしても構いませんが、他の小学校や異なる学年の子どももいるため、さびしい思いをする子がいないよう、子ども同士で配慮してもらうようにします。

⑥ダンボールハウスづくり

グループごとに、寝泊まりするためのダンボールハウスを子どもだけで作ります。

このとき、スタッフは全体に関する注意事項だけを伝え、教えすぎないようにします。子ども同士がお互いに教えあうことを重視します。なお、ガムテープは1グループに1個までとし、節約・工夫の大切さに子どもたちが気づけるようにします。

注)子どもたちが、「〇〇を貸してください」、「手伝って」、「教えて」等を言いにくても、予めチラシで告知していた備品以外は渡さず、自ら持ってきたもので対応するよう促します。大人はなるべく口を出さず、子どもたちが自分たちの力で解決できるように導きます。

例)「ハサミを貸してください」→「児童館で準備しているのは新聞、ダンボール、ガムテープだけだよ」
→使わなくてもできる方法や、持参している子に借りに行くなどの対応を子どもたちに考えさせます。



ハサミがない子どもたちがダンボールでダンボールを切っている様子

⑦夜更かしタイム

21時になった時点で消灯する旨を事前に伝えておきます。消灯以降に起きている場合は、寝ている人の迷惑にならないよう伝えます→各自就寝



避難所では周囲に配慮することが大切であることを学びます

⑧起床・片づけ

グループごとに荷物をまとめ、ダンボールハウスを解体し、まとめます。まとめた段ボールは廃品回収に出します。

⑨朝の活動

■非常食試食会

水を使ったご飯とお湯を使ったご飯を片付け中に準備。持ち物に火をつける道具が入っていなかった人は水でしか作らないかもしれないが、一人でも持っていれば火は分かち合うことができ、あたたかいご飯を全員がたべることができることを伝え、協力・分かち合いの心を考える機会とする。

↑上記5行は、ひとまず原文をそのまま入れています、
「(ダンボールハウスを)片付け中に」だとしたら、ご飯は誰がつくるのでしょうか？また、どのようなタイプの非常食をどれくらい準備しておくのかを1ページ目の「備品/道具」のところに書いておいたほうがいいのか？また、1ページ目に「乾パン」とありますが、これはどこかで食べるのでしょうか？

■マッチで火をつける

屋外に出てマッチを擦る体験をしてみる。

⑩フィードバック(親子参加)

朝、●時までに親に来館してもらい、親も含めて、全員で昨夜の様子の振り返りを行います。物品(発展①参照)などを配布し、家に帰ってからの作業について説明します。

⑪振り返り

各自、自宅に戻ってから、今回持参したもの以外で「こんなものがあると役に立つ」と感じたものや「絶対に準備しておくべきもの」などを家族で話し合い、リュックに追加し、非常用持ち出し袋としてすぐに持ち出せる場所に常備しておきます。また、保護者には子どもと話し合ったうえでアンケート用紙に記入し、児童館に提出するよう依頼します。

ポイント

◆知識や体験を重視したプログラムが多い傾向にありますが、大切なことはそれらをつなぎ合わせる力です。子どもが成功できるように準備しておくのではなく、子ども自身が「組み合わせ」、「工夫する」、その余地をあえて残しておくことが大切です。

◆ボランティアスタッフは、子どもたちに失敗してほしいという思いから、すぐに手や口を出し、成功させてしまいがちですが、本事業において重要なことは、まず、たくさんの「失敗体験」(こうするとうまくいかないという発見体験)をすることです。その上で、周囲との協力や、自身の創意工夫が成功につながることを知ると、それが深い学びになります。したがって、ボランティアスタッフに対し、子どもを信じて待つことの大切さを事前に周知しておく必要があります。

◆地域によっては実施の時期を検討する必要があります。寒いことも経験ではありますが、体調を崩さない時期にするなどの配慮が必要です。

◆申し込み時に、参加児童のアレルギー保有や疾患など、気になることについて保護者に聞き取りをしておきます。

発展

◆行政などが準備している備蓄食料は、賞味期限切れにならないように定期的に補充しています。非常食試食会に、賞味期限が迫ったものを活用させてもらえるよう、事前に行政などに掛け合っておきます。また、参加者に非常食を持ち帰らせ、家族にも体験してもらうようにすると、より意義深いものとなります。

◆自分が直面した課題を自分自身で解決する力をつけたいのはすべての保護者の願いです。しかし、マッチが擦れない、缶切りを使えない、紐が結べない、といった子どもが数多く存在しています。したがって、そうしたことを実体験する機会をプログラムの中に組み込んでいくようにします。

◆あえて制限を強めることで、工夫する力を引き出します。(例:食べ物を持ってこない、持ち物はリュック1つに入るように持ってくる、各グループにガムテープ1つ、など)

◆安全面を確保できれば屋外でも実施可能。(実施時期と不審者侵入防止などの観点も必要)

◆キャンプ場などを活用し、家族単位で実施することも可能です。

◆複数回にわたり実施したら、経験者枠をつくり、そこに該当する子どもたちにはグループ構成の際に、あえて異なるグループに分かれて入ってもらうようにします。そうすることで、実体験を踏まえ、工夫する力を発揮しやすくなります。

例)床が固く眠れなかった子どもが次回は重点的に床を作る、窓際で寒くて眠れなかった子どもが次回は窓から離れてダンボールハウスを設置するなど。



安全への配慮

- ・万一来場、救急用品を準備しておきます。
- ・万一来場、参加者の緊急連絡先を記入した名簿を準備しておきます。
- ・衛生上、古いダンボールや長期にわたり屋外で保管されていたダンボールは使用しないようにします。
- ・ダンボールは側面で手を切ることがあるので注意が必要です。
- ・カッターやハサミを使う場合は、後ろ側に人がいないことを十分に確かめてから行うよう注意を促します。

【プログラムアドバイザー】

兵庫県神戸市

六甲道児童館 金坂尚人

六甲道児童館スタッフ 八木千波 / 大谷幸子

神戸市立六甲道児童館 子育てコミュニティ育成事業

いざという時、どうするの??? ダンボールハウスでのお泊り会を通じて防災意識を高めます。

「平成29年度 ぼうさい 防災ダンボールキャンプ」

9/30(土) 17:00 ~ 10/1(日) 7:30

集合解散：成徳地域福祉センター（成徳小学校隣接）

申し込み期間 9/14~

(未経験者優先)

申し込み時間 9:30~12:00 13:00~17:00

・FAX/電話での申し込みはできません。
・お友達との申し込みは出来ません。
・当日のお問い合わせは下記の携帯電話までお願いいたします。

プログラム内容〔予定〕

- ・バッククッキング体験
(子ども達の夕食となるカレーを作ります)
- ・持ってきたものはななに??
- ・グループわけ
- ・ダンボールハウスづくり
- ・よふかしタイム 他

児童館で準備するもの

- ・ダンボール・ガムテープ
- ・新聞・乾パン・水

対象：小学生1年から6年生 20名
(保護者の方は必ず送り迎えをお願いします。
また、集合から2時間は一緒に参加してください。)
※朝食・入浴はプログラムに含みません。

持ち物

- ・避難時にダンボールで家を作って泊まると仮定し、
今回の防災キャンプに必要と思うものを
家族で相談し、リュック1つにまとめるように入れてきてください。
※当日は室内にダンボールでおうちを作ります。
※食べ物・飲み物は持ち込まないでください。

※下の申込用紙を児童館まで直接提出ください。

※定員になり次第締め切ります。※定員に達した同日に提出された分は抽選とさせていただきます。

「平成29年度 防災ダンボールキャンプ」申込書



参加者名前

アレルギーの有無 有・無

小学校 年生

保護者氏名

保護者連絡先(携帯)

領収証 様

円

ダンボールキャンプ参加費として
平成29年9月30日
神戸市立六甲道児童館
開放委員会



同時開催



参加費
100円/1人
保険費含

参加費は当日徴収します。

お問い合わせ：神戸市立六甲道児童館 078-841-2331
当日用携帯 080-6132-3089 担当 金坂

6-① 脱出ゲーム

みんなで協力しながらクリアを目指す

子どもたちの好きな謎解きを題材にした集団遊びです。同じ目標に向かって、グループで話し合い、協力しながら脱出を目指すことで、みんなで一緒に達成感を味わうことができます。

【リーダーチャート】
スタッフ:5
地域:4
福祉:3
参画度:3
取り組みやすさ:5

ねらい ▶ 子どもの育ちにどう関係するのか？

- グループでたくさんの課題にチャレンジしていく過程の中で、積極的になったり、控えめになったり、グループのリーダーが現れたりなど、いろいろな関わりができる。謎を解くという同じミッションをもった**仲間同士、遊びを通してコミュニケーションを図る**ことができる。
- ストーリーの中で謎解きをしていくので、**想像力を働かせながら遊ぶ**体験となる。
- 緊張感を感じながら、チャレンジや失敗など、**短い時間の中でいろいろな体験を**することができる。必死になって参加することで最終的に**成功しても失敗しても達成感を味わう**ことができる。

実施条件 ▶ 必要な「人」、「こと」、「もの」など

【対象年齢】 幼児、小学生、中高生、大人も可

【参加する人数の目安】 4～6人のグループをつくる。何グループでも参加可

【必要なスタッフ数】 2～3人

【設備/環境】 児童館

【実施時期】 いつでも

【備品/道具】

- ★謎問題
- ★解答用紙
- ★筆記用具

上記以外でも必要や予算に応じてゲームを演出するアイテムを加えてもよい。

- ・鍵付きの箱
- ・懐中電灯など

【総予算】

1,000円くらい～

(新しいものを買うよりも、児童館にあるものをうまく使うと身近なゲームになる)

事前準備

◆ストーリー仕立ての謎問題

- ・ひらめきによる問題や、数字などを計算する問題、漢字や言葉あそびを利用した問題、パズルのような組み合わせの問題、塗り絵など実際にアクションを伴う問題など、種類の違う問題をたくさん用意しておく、それぞれの得意分野をいかしながらみんなで楽しむことができます。また参加年齢によって問題の難易度を変えることもできます。
- ・その他、みんなで協力しないと解けない問題、他チームと協力しないと解けない問題、最後のステージに使用するちょっと難しい問題(これまでの問題や答えなどに伏線を張ってあるとより面白い問題になる)など。

◆遊びに没頭できる雰囲気

- ・明かり…暗くする、一部だけ照らす、突然消すなど雰囲気づくりを行う
- ・音楽…効果音や曲など
- ・部屋…扉を閉めて部屋(遊戯室、図書室など)を外と遮断して行ったり、特別感を出すために時間外や休館日などに児童館全体を使って行うのもおすすめ

◆ゲームを演出する衣装やアイテム

- ・ストーリーや雰囲気に合わせた衣装
- ・懐中電灯、地図、時計、宝箱、鍵付きのノートなど謎解きをわくわくさせるようなアイテム



ゲームの雰囲気を盛り上げる道具はいろいろ

進め方

①スタート前

グループに、鉛筆や問題、解答用紙など必要なものを配布します。

②遊び方の説明

遊び方の説明をし、ルールや制限時間を確認します。
(当館で実施する場合の制限時間は60分)

③ゲーム

一斉にゲームをスタート。進み具合によって、ヒントを出したり、サポートしたりします。

④答え合わせ、解答説明

制限時間の60分以内に謎を解いて、最後の答えを出すことで脱出成功とします。最後まで問題が解けないグループもあるので、みんなで答え合わせをします。

⑤グループでの振り返り

ゲーム終了後に、グループで活動を振り返ります。どうしたらもっとグループの力が発揮できたかなどを話し合います。



鍵付きの箱



グループで知恵を出し合う

ポイント

◆ただのクイズラリーにさせないために

クイズや謎を解く楽しさとは別に、プログラムの中にグループで協力する楽しさを盛り込むことがポイントです。知識よりもひらめき、チカラよりも工夫、ひとりよりもみんなで挑戦する楽しさを感じられるようにします。

◆年齢や参加集団に合わせた謎づくり

難易度や問題数を変えることで、中高生から大人までさまざまな年齢に対応することができ、親子で実施することも可能です。

◆謎は難しめに設定する

このプログラムの面白いところは、脱出できなくても楽しさを感じられるところです。その楽しさはグループでの共同作業や共感から生まれるため、苦労やドキドキ感を共感した仲間がいることが大切になります。全員が脱出成功できるような簡単な問題ではなく、少し難しく、脱出成功率が20～50%くらいの問題の方が、楽しさや達成感を得られます。

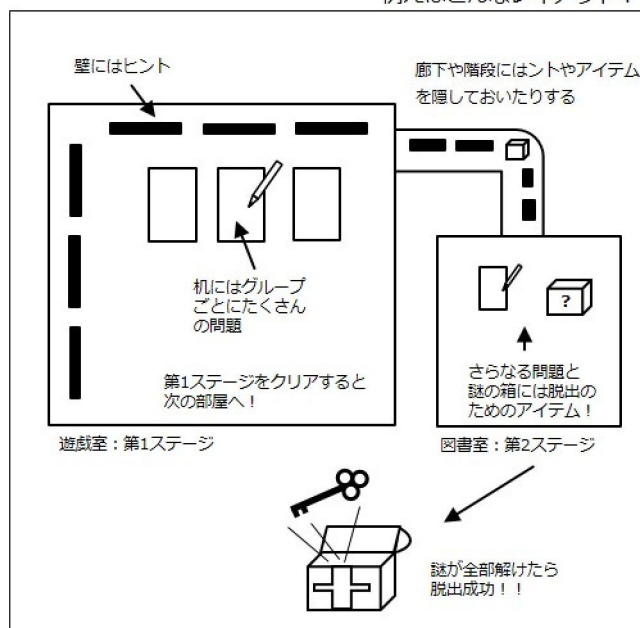
◆問題づくりのために

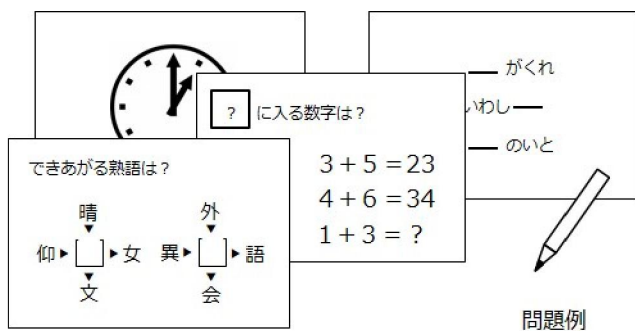
謎そのものはクイズの本などを参考にするのもよいが、会場のレイアウトやストーリーは、それぞれの児童館に合わせた形で作っていくことでオリジナルの脱出ゲームができあがります。

館内全体を使って行う場合は、廊下や階段など普段遊びに使わない場所にもヒントを貼ったり、アイテムや問題を隠したりします。ステージが変わるたびに部屋を変えるのもいいでしょう。

また、一つの部屋だけで行うことも可能です。その場合はスライドを利用したり、ボーナスタイムなどを設けて部屋の中でいろいろな変化をつけることをお勧めします。

例えばこんなレイアウト！





問題例

発展

実施エリアを児童館だけでなく、学校や、地域の公園、商店街などに広げると、ストーリーや謎などの幅も広がり、大規模な脱出ゲームになります。出かけた先で、地域の人たちに「ヒントを出す」「ミッションを邪魔する」などの役を担当し協力してもらうことで、活動全体の幅が広がり、地域交流にもなります。



安全への配慮

記載事項はなし



脱出成功！大人もうれしい！

【プログラムアドバイザー】
愛知県児童総合センター 高阪 麻子



館内のいろいろな場所に仕掛けられたヒント

実施資料

開館20周年お父さん応援プログラム

閉ざされた 児童総合センターからの 脱出

10月23日(日)
17:00~19:00 (18:30受付)

対象	5歳以上の子どもと父親 ※4回分の市税と対象施設外の子どもには 荷入れを館内に用意します。
定員	25組
申し込み	9月1日(木)10:00より電話にて受付。 先着順。
参加費	無料 ただし入館料が必要。 (中学生以下無料 その他300円)
問い合わせ先 申し込み先	愛知県児童総合センター 「お父さん応援プログラム」係 http://www.acc-aichi.org 0561-63-1110

閉館のアナウンスが聞こえるのに、閉じ込められてしまっ
て離れない？
親子で次々に出てくる謎を解
いて脱出の力を見つけてなけ
ればならない！
夕暮れ時の愛知県児童総合
センターで、父と子の絆が試
される！
あなたは、夜の児童館に潜む
謎を解き明かし、脱出するこ
とができるだろうか？

Aichi Children's Center

参加者募集のチラシ

6-② ジブンの処方箋

ごっこ遊びで見えてくる本当の気持ち

【リーダーチャート】
スタッフ:4
地域:3
福祉:5
参画度:3
取り組みやすさ:5

薬や処方箋を作るという「ごっこ遊び」の中で子どもたちの中にある喜びや悲しみ、怒りなどの感情を言語化することは、気付いていなかった自分自身の感情に出会ったり、自分で解決することができたり、職員が適切なケアやフォローを知るためのきっかけづくりにもなります。

ねらい ▶ 子どもの育ちにどう関係するのか？

- 「自分の気持ちに気付く」
「大丈夫だと思っていたけど本当はしんどかったんだ」など、**自分でも気付いていないかもしれない感情に気づき、気持ちを整理し、振り返る**きっかけとなる。
- 「気持ちを表現する」
喜び、悲しみ、怒りなど**自分の気持ちを、遊びを通して素直に表現する機会**を与える。
- 「誰かに伝えることができる」
気持ちを表現することを良くないことだと思ってしまいがちな現代の子どもたちに、**伝えてもいい、もっと伝えてほしいと思っている、というメッセージ**となる。

実施条件 ▶ 必要な「人」、「こと」、「もの」など

【対象年齢】 幼児から大人まで

【参加する人数の目安】 随時参加、何人でも

【必要なスタッフ数】 1～2人

【設備/環境】 児童館

【実施時期】 いつでも

【備品/道具】 処方箋、薬袋、薬の材料(ビーズなど)、ビニールの袋、シーラー、小さな容器とスプーン

【総予算】 100円/一人 くらい

事前準備

◆準備するもの

- ・薬 (小袋に入った薬をイメージ)
薬の材料 (10種類程度:ビーズ、アイロンビーズ、おはじき、スパンコール、木の実、ストロー、穴あけ色紙、紙粘土、紙ビーズ、BB弾、貝殻、小豆、コーン、スチロール球などを素材ごとに容器にいれておく)
- 小分けのための小さな容器とスプーン
- ビニールの小袋(5cm四方程度)
- シーラー (密封するため)
- ・処方箋 (薬の名前、効能などを書き込む用紙)
- ・薬袋 (薬と処方箋を入れられる袋)

◆環境

病院ごっこ、薬屋さんごっこのようなシチュエーションを設定すると、子どもたちの興味をくすぐり、空想の世界に入り込みやすくなります。病院や薬局の窓口のようなしつらえがあるとなお楽しめますが、物的な環境設定がなくても、みんなでストーリーを想像するだけでもOKです。



薬の素材となる小物



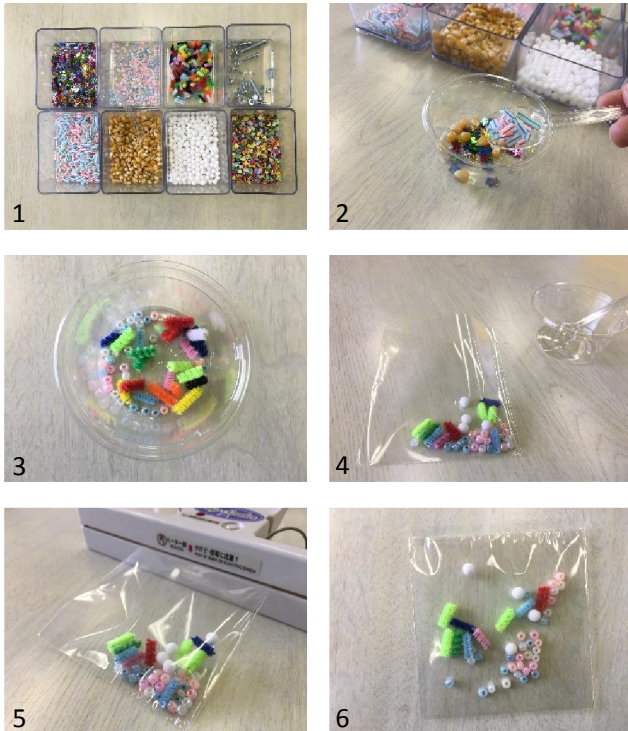
薬の袋と処方箋

進め方

設定：薬屋さん遊び

①薬を作ります

カラフルなビーズや木の実などを何種類か、素材ごとに容器に入れ、小さなスプーンですくえるようにします。好きな素材を3つ選んで、小さな容器に入れる。その後ビニールの小袋に移します。最後にシーラーで密封します。



②処方箋を作ります

できあがった薬の処方箋を作ります。用紙に薬の名前、効能などを自分で考え、書き込みます。

例)薬の名前：ゲンキナレールA

薬の効能：落ち込んでいてもすぐに元気になれる

③薬と処方箋を、窓口で薬袋に入れてもらう

自分で作った薬と処方箋を、窓口(職員)に渡して薬袋に入れてもらいます。職員にとっては、この時が子どもたちの本音に触れるチャンスです。うまく関わることで普段は話してくれないことを打ち明けてくれることもあります。悩みや喜びなどを子どもたちから直接聞き、一緒に喜んだり、サポートしたりします。

ポイント

◆気持ちの表現自体を遊びとしてとらえる

相談窓口ではなく、子どもたちにとってはあくまでも遊びです。遊びの中で、職員が子どもたちの気持ちを知るためのきっかけとします。

◆できあがった薬は「お守り」になる

つくる薬はただの工作ではなく、思いや願いがカタチになって表れたものです。子どもたちにとっては「お守り」のような役目を果たすことも考えられるので、職員もその気持ちをしっかり受け止めることが大切です。

発展

◆薬の名前にこだわる

薬の名前を面白おかしくすることで、言葉遊びなどの要素が広がります。

例)ダイセイコウゴールド
ナカナオリスムーズE

◆薬の中身にこだわる

小さなビーズなどカラフルでいろいろなカタチがあるもののほうが、選ぶ際に楽しめがあります。ストローを細かく切ったものやペットボトルビーズなど、子どもたちと一緒に手作りで準備したり、小石や木の実などを拾い集めたりするところから楽しむこともできます。

◆ごっこ遊びにこだわる

薬局名を考えたり、薬剤師さんのイメージで白衣を着たり、窓口を作ってみるなど、「ごっこ遊び」の部分にこだわって雰囲気を作ると、遊びとしての楽しさがより一層増します。



安全への配慮

- ・ビーズなどの小物の誤飲に気を付けましょう。
- ・シーラーでやけどをすることのないよう注意しましょう。



密封された薬

【プログラムアドバイザー】

愛知県児童総合センター 高阪 麻子

6-③ イクメン応援プログラム～お父さんを楽しもう～

父と子の絆が深まる

【リーダーチャート】
スタッフ:3
地域:5
福祉:4
参画度:3
取り組みやすさ:5

父子が同じ時間を共有し、お父さんがお父さんらしく子育てを楽しむきっかけとなるように、お父さん目線でのプログラムを実施します。また一緒に参加した他の父子の姿を見ることで、子どもとの様々な関わり方に気付くことができます。

ねらい ▶ 子どもの育ちにどう関係するのか？

●「父親の子育て支援」

子育てに関わるお父さんは増えているが、お母さんの手伝い、サポートとしてだけでなく、父親として**お父さん自身が、子育てを楽しむ**きっかけとする。

●「母親の子育て負担の軽減」

お父さんが楽しんで積極的に子育てに参加してくれることで、**お母さんの負担が心理的、体力的にも軽減**され、子育てに余裕ができ、お母さん自身も楽しむことができる。

●「父親の児童館利用促進」

「お父さんの対象のプログラム」を実施し、児童館に来てもらうことで、今後も**継続したお父さんの利用を促す**ことができる。

実施条件 ▶ 必要な「人」、「こと」、「もの」など

【対象年齢】 0歳から

(小さな頃からお父さんが関わるのが重要だと考えます)

【参加する人数の目安】 父子15組くらい

【必要なスタッフ数】 2～3人

【設備/環境】 児童館

【実施時期】 比較のお父さんがお休みであることが多い週末や祝日など

【備品/道具】 それぞれのプログラム内容に応じて

【総予算】 それぞれのプログラム内容に応じて

事前準備

◆プログラムを考える

お父さんに向いていると思われる、ダイナミックな運動遊びやアウトドア、クッキング、もちつきなどのプログラムがこれまでも実施されてきましたが、実施に際してはお父さんが興味のあるもの、お父さんの趣味、男性脳をくすぐるようなプログラムをリサーチします。

◆環境を考える

普段は子どもやお母さんの来館が多い児童館。お父さんにとって、来館しづらい、利用しづらい点はないかを考えます。大人の男性用のトイレはあるか、授乳室があるか(お母さんがプレイルームで授乳しなくてよいか)など、普段は気が付かないような点も、お父さんが来館することを前提に環境を振り返り、必要に応じて環境を整えます。

進め方

例① お父さんが本気になれる運動会

運動会は、子どもたちが楽しむために企画されがちですが、その中にお父さんたちだけの真剣勝負の時間を取り入れます。ドッジボールやリレーなど、どんな競技でも構いません。子どもたちが応援し、お父さんたちだけで競技を行います。はじめは照れくさそうに参加しているお父さんも子どもたちからの本気の声援を受け、いつの間にか本気になっていきます。それを見た子どもたちが嬉しそうな顔をする様子に、お父さん自身が真剣に遊ぶことの必要性を見い出します。



本気モードになるお父さんたち

例② タブレットを使ったプログラミング

タブレット端末自体に興味を持つのは、お父さんならではの反応です。その場で描いたみんなのイラストをひとつのスクリーンに映し出すというような、デジタルの楽しさには、お父さんも夢中になります。



タブレットを使ったプログラミング

例③ ボードゲームやカードゲームの遊び

最近のボードゲームは大人でも十分に楽しめます。偶然性の高いゲームなどは、大人が手加減しなくても対戦できるため、親子で真剣勝負をすることができます。自分の知っているゲーム、得意なゲームで遊びたがる子どもに対し、お父さんたちは新しいゲームにチャレンジしたがる傾向にあります。親子で、どのゲームボードにするかを選んでいく時間も、楽しい時間の一つです。じっくりと子どもと向き合い、時間をかけて子どもと遊ぶのもお父さんならではの関わり方です。



ボードゲームのプログラム「アナログカフェ」

ポイント

◆お父さんと子どもだけの時間

このプログラムに唯一欠かせない点が、「お母さんは参加をしないこと」です。できれば、会場内での見学も遠慮してもらい、遊びのスペースは、お父さんと子どもだけの空間にします。これは、日ごろ、お母さんの方が子どもと接する時間が長いので、遊びの中でもお母さんがついつい主導権を握ってしまいがちになることを避けるためです。ここでは、お父さんと子どもだけの時間を過ごしてもらうことを大切にします。

◆お父さんだけの作業

子どもと一緒に遊ぶプログラムの中に、お父さんたちだけの対戦、難しい作業、大人の知恵を絞った作戦タイムなどの時間を盛り込みます。お父さんの役割や出番があることで、より参加感を充実させることができます。

◆始めの一步はお母さんから

お父さんの企画を募集する際、お父さん自身に働きかけてもなかなか響かないことが多いのが実状です。そんなときは、まずお母さんに声をかけ、「お父さん参加のプログラム」を紹介すると、とても良い反応があったりします。広報の初めの一步としては、まずお母さんを巻き込むのがおすすめです。

発展

◆「ようこそお父さん！ステッカー」

イクメン応援キャラバン隊を実施する際、現場のスタッフから「お父さんが児童館を利用しやすいように、看板をつくろう！」というアイデアが出ました。それを実現させたのが「ようこそお父さん！ステッカー」。ステッカーを児童館の玄関に貼り、お父さんも大歓迎であることを伝えることで、来館しやすくなると考えています。



「ようこそお父さん！ステッカー」。
子ども向けではなく、お父さんを意識した色やデザインです。



◆ 大型児童館での実施

大型館やセンターなどが実施する場合、地域の児童館などをキャラバンしながら、父親の子育て支援促進を啓発することもできます。



安全への配慮

大人が活動するための適度な部屋の広さを確保し、怪我に気をつけましょう。

【プログラムアドバイザー】

愛知県児童総合センター 高阪 麻子

6-④「家族のうれしい顔」写真

家族の写真を通して家族の存在を実感

「家族で写真を撮ること」を遊びにしました。セルフタイマーを使い撮ることで、楽しみながら、家族の存在を実感し、家族のあり方を再確認するとともに、その絆をより深めることができるプログラムです。

【リーダーチャート】

スタッフ:2

地域:5

福祉:5

参画度:3

取り組みやすさ:5

ねらい ▶ 子どもの育ちにどう関係するのか？

●「家族の絆を深める」

気軽に写真を撮ることができる時代ではあるが、あえて家族全員の写真を撮ることで、「家族みんな」の存在を意識するきっかけとなる。

●「時間を共有する」

セルフタイマー機能を使うことで、ひと手間をかけて自分たちで楽しみながら写真を撮る体験となる。そのちょっとした時間の中に家族の楽しい時間を過ごすことができる。

実施条件 ▶ 必要な「人」、「こと」、「もの」など

【対象年齢】 だれでも

【参加する人数の目安】 随時参加、何人でも

【必要なスタッフ数】 2人

【設備/環境】 児童館

【実施時期】 いつでも

当館では児童福祉週間や、親子の日などに実施しています。また場面設定が必要なので、実施日を考慮する必要があります。

【備品/道具】

★カメラ

★三脚

★タイトル記入用紙

★プリンター

その他、照明やバック紙(白い紙や布など)があれば、より本格的に撮影できます。

【総予算】

50円～100円/ひと家族あたり (消耗品のみ)

必要に応じて道具や機材の費用など

事前準備

1か月ほど前から事前に告知し、家族での来館を促します。

写真スタジオで撮影するような環境を作ります。

◆カメラと三脚

セルフタイマー機能が付いたもの。

◆照明

無くてもよいが、あれば雰囲気が出る。専用のものでなくても、明るい懐中電灯などでも代用可。

◆白のバック紙

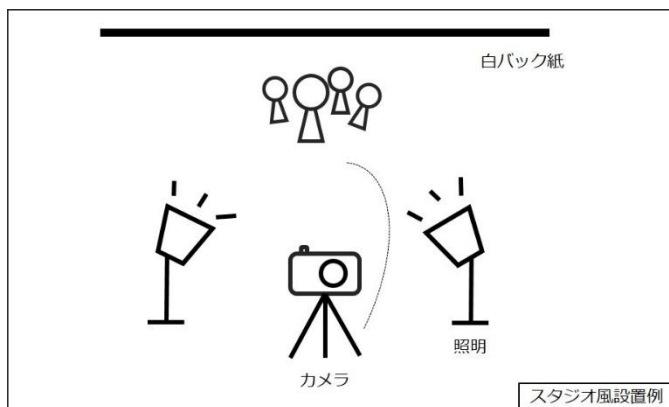
写真スタジオのように、背景をなくすための紙や布。影やしわが気になる場合は自然光の入る窓の前に撮影コーナーを設置するとよい。白い壁などでも代用可。

◆タイトル記入用紙

参加者に、写真のタイトルを記入してもらい、写真展の際に掲示。

◆プリンター

撮影後すぐに写真を印刷し、飾ることができれば、モチベーションアップ。(後日でも可)



スタジオ風設置例

進め方

ルール

- ・家族単位で参加してもらいます。
- ・撮影はセルフタイマー機能を使います。

- ①家族ごとに受付をする。
- ②家族の中で誰がシャッターを押すかを決めておく。
- ③撮影時のポーズを決めます。
- ④セルフタイマーを設定し、カウントダウンをしながら家族の「うれしい顔」の写真を撮ります。失敗しても笑い合える雰囲気大切です。
- ⑤みんなが納得いくまで撮りなおします。
- ⑥撮った写真を家族で見ながら、写真にタイトルをつけます。
- ⑦「家族のうれしい顔写真展」を行います。その場で実施する場合、写真を印刷し並べて展示します。後日実施する場合は、日程や展示場所などを工夫することで大勢の人に見てもらうことができます。



撮影の様子

ポイント

◆いい写真を撮ることが目的ではなく、写真という作品を家族みんなで作る、という意識で写真を撮ることそのものを楽しんでもらいます。

◆写真を撮る際、白い紙を背景にするのはプロカメラマンに教えてもらった技。背景をなくすことで人の動きや表情がよく映える写真が撮れるためだそうです。ぜひ実践してみてください。

◆セルフタイマーがうまく作動しなかったり、目をつぶってしまったり、タイミングを合わせるのが難しいこともセルフタイマーの醍醐味。撮りなおしになった時こそ、楽しみながら撮影できるチャンスととらえ、声掛けをしていきます。

◆いつもと違うポーズを考える声掛け

多くの家族はみんなで並んで、よくあるポーズで撮ろうとします。いつもと違う写真を楽しんでもらうためには、スタッフの声かけが有効です。「今まで撮ったことのないポーズで撮ろう」「〇〇家らしいポーズを考えよう」など。声掛けと同時に、楽しそうに撮れている写真をサンプルとして掲示しておく、ポーズを決めることも楽しめます。

◆困った時の「ポーズくじ」

いつもと違うポーズと言われて困る家族のために、ポーズのヒントになるワードが書かれたくじを用意。くじを引くという遊び心がプラスされて、家族同士の会話やアイデアがより広がるきっかけとなります。

例)

全員で手をつなぐ
抱っこする・おんぶする
座る
ジャンプするなど

◆写真に家族でタイトルをつける作業は、その写真を見ながら楽しかった一瞬を振り返るきっかけとなります。どの家族も自分たちの写真を見ながら、いい笑顔になる大切な時間なので、じっくりと対応します。

◆個人情報や肖像権などの観点から、写真を展示すること、多くの人に見てもらうことを、あらかじめ保護者に説明しておきます。

◆データを直接やりとりすることが困難な場合、ホームページやブログにアップし、そこからダウンロードしてもらう方法もあります。その際は、掲載の了承をとったり、理解してもらう必要があります。



いつもとは違うポーズにチャレンジ



撮影コーナーの様子

発展

◆「うれしい顔写真展」を地域で実施する
児童館内だけでなく、公民館やスーパーマーケットなど地域の人が集まる場所で写真展を実施すると、児童館の活動を広く知ってもらえることに加え、多くの人たちに「家族」の温かさ、大切さを感じてもらえることができ、地域で子どもを育てることの大切さに気付くきっかけとなります。

◆家族で来館するきっかけとする
幅広く児童館を知ってほしい時、大規模な児童館祭りなどの開催に合わせてこのプログラムを企画すると、お父さんお母さん、おじいちゃんおばあちゃんまで、いつもは来たことがない年齢層の大人も児童館に来るきっかけとなります。

◆プレパパプレママの事業としても、実施できます。地域の子育て支援の場として、児童館を認知するきっかけになります。



地域の大型ショッピングセンターでの写真展開催

● 児童福祉週間特別プログラム ●

5/3 日祝 4 月祝 5 火祝 6 水休

セルフタイマーで撮る 「家族のうれしい顔」写真

5月5日は「子どもの日」。子どもの健やかな成長を祈る日です。子どもたちが笑顔で暮らせるように、子どもや家庭についてみんなで考える日です。家族の絆をあらためて感じるセルフタイマーで撮る「家族のうれしい顔」を募集します。写真を撮るとき、写真を見るとき、みんなとても素敵な表情になります。親子で、家族でどんな写真を撮って応募してください。

【時間】 10:00～16:00

【場所】 コラボラボ

【対象】 親子、家族



*カメラは用意しています。

*応募していただいた写真は、後日「家族のうれしい顔」写真展で展示させていただきます。

Aichi Children's Center

参加者募集のチラシ



安全への配慮

照明やカメラの三脚などが倒れて怪我をしないように場所や設置方法に配慮しましょう。

【プログラムアドバイザー】

愛知県児童総合センター 高阪 麻子

16-① 就労体験型まつり（子どものまち）

仮想の街で働いて遊ぼう

子どもたちは、自らが考えた仮想の街で仕事を探し、働き、仮想通貨を得る体験をします。遊びを通して、働くことや社会の仕組みを学ぶことができる事業です。地域の子どもから大人までが一堂に会し、共に企画し、仮想の街を楽しむイベントで、中高生支援の取組にもなっています。

【リーダーチャート】

スタッフ:4
地域:5
福祉:3
参画度:4
取り組みやすさ:4

合計20点になるよう調整をお願いします。

ねらい ▶ 子どもの育ちにどう関係するのか？

- 小学生、中高生、地域の大人の遊び心を刺激する。
- 小学生、中高生の模擬社会体験の機会を創出する。
- 小学生、中高生による企画運営、ボランティア体験の機会を提供する。
- 準備から本番へ向かうプロセスを重視し、子どもの意見を尊重するなかで、子どもが自己実現を図る。
- 小学生、中高生、地域の大人の異年齢交流を図る。
- 地域で子どもを育てる環境作りをすすめ、地域ネットワークの構築を図る。
- 遊びの持つ力が、子どもを地域で健全に育てる力となることを児童館が発信する。
- 地域で開催する新たな祭りの形式と仕組みを情報発信し、児童館がコーディネートし、各地域単位で地域住民主体の開催を推進する。
- 児童館のない地域に展開する。(例:八王子市は小学校70校に対して児童館は10館。市内を5つのブロック地域に分けて、2つの児童館で1ブロックの地域を担当。)

実施条件 ▶ 必要な「人」、「こと」、「もの」など

【対象年齢】 未就学児から18歳

【参加する人数の目安】

未就学児から18歳:360人

大人実行委員(地域ボランティア・大学生):90人

子ども実行委員(小中高生):30人

保護者120人

※未就学児は保護者同伴

※360人参加の場合、店舗数は30店舗

【必要なスタッフ数】 職員:6人、各店舗に3人の大人実行委員:計90人、子ども実行委員:30人

【設備/環境】・広域のオープンスペース(最低でも小学校の体育館程度の広さが必要)、雨天の場合も想定し、室内も確保しておく。電源、水場。

【実施時期】 屋外での実施の場合、気候の適した春や秋、かつ近隣の学校や地域行事の重ならない土日祝日(特に中高生の試験期間は回避する)

【備品/道具】

で、近隣の学校や地域のイベントと重ならない時期の祝日・土・日屋外で30店舗、600人の参加者を想定した場合:テント、机、椅子、ブルーシート/こどもシティ住民票、ハッチ券、アルバイト・実行委員名札、店長マニュアル/景品、ジュース・飲み物/店舗看板、案内看板、場内整理コーン

事前準備

- ◆年度初めに、イベントを理解するために児童館職員研修を実施します。
- ◆中高生の参加意欲を引き出すため、児童館で日頃の遊びを通して、子どもや学校などと信頼関係を作ります。
- ◆地域の人材に児童館活動のボランティア参加を促し、子ども参画の意義に対する理解が深まるようにします。
- ◆子どものニーズや社会的課題に対応する新たな地域の祭りとして、地域住民主体で実施する今後の展望やイメージをPRします。

準備(初年度の初動の準備)

- ①イベントを理解するため児童館職員研修を実施します。
 - ・先駆的に実施している市外の児童館から研修を受け、新たな祭りの形式を理解する
 - ・研修も含め、モデル事業として1会場で実施する。
- ②地域社会資源の調査と地域課題を把握します。
 - ・地域懇談会等の開催、主任児童委員、青少年委員、町会等との連携や懇談を頻繁に開催。
 - ・会場となる学校や公共施設、公園を視察。
- ③長期計画を立てるとともに3年、5年時に検証し、計画の見直しをする。



参加者を未就学児から18歳+大人実行委員+子ども実行委員+保護者=600人と考えた場合です。大人実行委員も子ども実行委員もお客さんになって店舗を交代で回るため参加者にカウントしています。

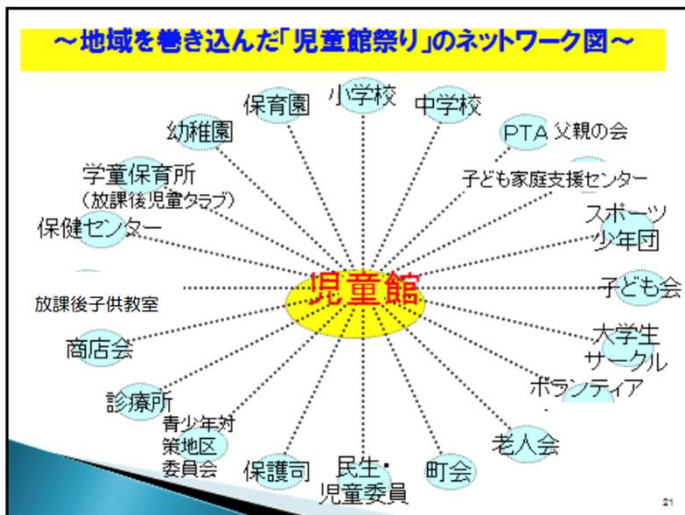
準備(実施1年前～半年前)

- ◆大人実行委員(ボランティア)や子ども実行委員へ協力依頼、日程、会場、財源など実施概要案を決定します。
- ・各団体や地域住民へイベントの主旨説明及び協力依頼と実行委員の協力依頼をする。
- ・会場、財源を確保します。

半年前

- ◆大人実行委員の募集をします。
- ・小学校PTA、民生・児童委員、町内会など開催会場の各団体や地域住民に依頼する。
- ・従前から活動する児童館ボランティア、母親クラブのリーダー、ロールモデルとなる大学生や大学生サークルを大人実行委員とする。
- ◆大人実行委員会を組織し、会議と準備会を開催し、活動概要を策定します。
- ・大人実行委員の意見を尊重しながらイベントの主旨説明をして理解を図る。
- ・ねらい、目標、日時、会場(雨天会場)、参加対象、来場想定、予算、スタッフの確保、今後のスケジュール、安全対策等の検討をして、活動概要を策定する。

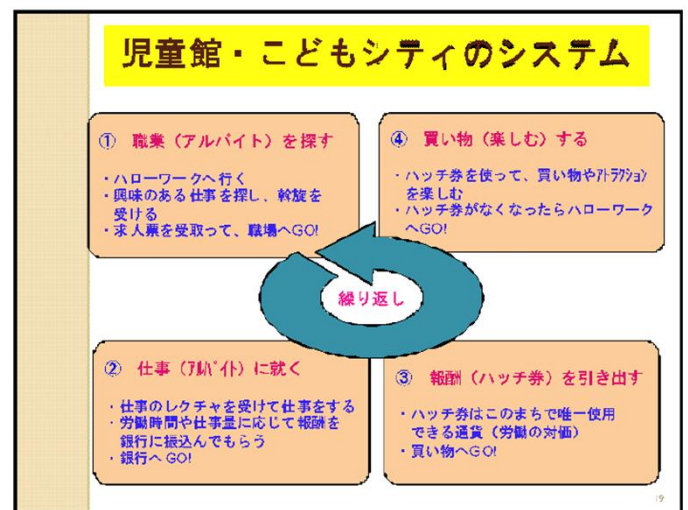
- ◆子ども実行委員を募集します。
- ・児童館でチラシを配布、ホームページ等でも募集する。
- ・学校、放課後児童クラブ、放課後子供教室、子ども会などで募集する。



準備(2か月前～1か月前)

2か月前

- ◆子ども実行委員会を組織して、会議と準備会を開催します。
- ・児童館内で定期的に開催する。
- ・学校、放課後児童クラブ、放課後子供教室、子ども会単位で適宜準備をする。
- ・小学校、中学校、公共の施設を借りて、児童館が出張し、会議と準備を行う。
- ・会議では私たちの暮らしにどのような施設や店舗が必要か、また担当したい店舗を話し合い、仮想の街を構想する。
- ・店舗に必要なものを準備し、店舗の副店長としてアルバイトマニュアルの作成や流通の仕組みを理解する。
- ・公共施設の設置希望が出た場合は、清掃事業所、消防署、警察署、郵便局、歯医者、病院などに協力を要請する。



- ◆開催広報、PR、情報発信を行います。
- ・参加した子どもが、安全にアルバイト体験ができるように来場想定人数、駐車スペース等を考慮し、広報の範囲や手法を考える。
- ・児童館でチラシやホームページ等や学校など募集の方法や周知先の選定をする。
- ・実施会場周辺地域や子ども利用施設など子どもの目に触れるポスターなどの掲示場所も配慮し、効果的な情報提供をする。
- ・実施会場周辺、学校、町会等に案内を配布する。

◆より具体的な準備を開始します。

- ・イベント全般の運営に必要な準備として、店舗一覧、会場図、案内看板、店長マニュアル、住民票等の作成、通貨(ハッチ券)の印刷をする。
- ・必要備品の在庫確認、消耗品の購入を行い、食品系店舗がある場合は保健所への申請も行う。

1か月前

- ◆当日運営計画の策定と関係者への周知を行います。
- ・進行表、大人実行委員と子ども実行委員、児童館職員役割分担を作成する。
- ・当日の運営について関係者に周知する。

前日

- ◆災害情報(警報・注意報など)と会場の状況等を考慮し、開催の判断をします。
- ◆搬入する必要備品の最終チェックと大人・子ども実行委員の参加の可否の確認をします。

当日の進め方

- ◆前日と同様、災害情報(警報・注意報など)と会場の状況等を考慮し、会場の変更や延期、中断、中止等、開催の判断を行います。
 - ◆職員は8:30、学生は9:00に集合して会場の設置をします。
 - ◆大人実行委員は10:00、子ども実行委員は10:30に集合して各コーナーを準備します。
 - ◆11:00 こどもシティを開始、各店舗はアルバイトの受付とコーナーの運営を始めます。
 - ◆15:00 こどもシティ終了。
 - ◆片付け、子ども実行委員は反省会して15:30に解散します。
- ※詳細は資料の「児童館・こどもシティタイムスケジュール」を参照。

★安全対策を講じながらも、規制や管理をしすぎずに、子ども主体のイベントになるように配慮して対応します。

《実施日の2か月前に制作し、実際に掲出したチラシ》

ポイント

- ◆モデル事業として児童館主導で1回実施し、イベントのノウハウと安全面を把握しておきます。
- ◆児童館を日常利用できない子どもへの提供を考慮して、実施回数を毎年計画的に増やします。
- ◆PDCAのサイクルを重視して、開催後に必ず評価と改善を行います。また数年に1回、見直しを含めた再計画を行います。
- ◆子どもの意見を尊重し、時間をかけて子ども参画の意識を強く持って接します。
- ◆大人実行委員は、子ども実行委員が運営上で困った時にのみサポートするよう役割を徹底します。
- ◆児童館はコーディネートに徹し、継続して地域主体でイベントの開催ができるよう、予算の確保や仕組みを広く市民に公開していきます。
- ◆児童館職員は、子どもを中心とした環境作りが地域福祉の向上につながることを意識し、地域住民が主体的に取り組めるように配慮する。
- ◆参加者が面白いと思えるように、児童館の遊びを通じた健全育成を柱としたプログラムにします。
- ◆寄付を募るなど、安定した財源確保を図ります。
- ◆大人実行委員と子ども実行委員が反省会で、振り返るとともに、アンケート、会議等でイベントを評価して、次回への展望を検討します。

発展

- ◆児童館を日常的に利用できない地域や子どもに対して地域の大人の理解と学校との連携を図り、すべての子どもが参加できるように回数や会場などを検討します。
- ◆児童館職員のコミュニティワークのスキル向上のための仕組みとして各児童館の祭りにこどもシティを取り入れます。
- ◆「まち」の仕組みの中に、子ども議員や市長などを設置します。子ども議会で仮想のまちの運営を子ども議員が掌るなど、子どもにやさしいまちづくりを目指して子どもの市政への参画事業として発展的に開催できます。
- ◆子どもの遊びが、就労や消費について学びにつながることを紹介するために、商工会議所、消費者センターなどのイベントでプログラムの仕組みを提供します。
- ◆地域性を活かして、商店会や企業を巻き込み、子どもを応援する企業の参画や自然環境を活かした事業にすることも可能です。これにより、子どもは地域の企業や商店とつながり、地元とつながることができます。
- ◆地域で顔の見える関係ができることで、子どもを守る防犯対策や安全対策にもつながります。

安全への配慮

- ・地域の交通安全協会や地域の方の協力、車、防犯、衛生面、怪我、苦情対応などに気を配り、事故防止と安全対策を図ります。

【プログラムアドバイザー】

東京都八王子市中野児童館 井垣 利朗

じどうかん
児童館・こどもシティ2017

こども 午前11:00～午後3:00
受付 10:45～2:30

9/10 (日)

場所: 都立小宮公園
雑木林ホール前(サービスセンターまえ)
★雨のときはひよどり山中学校
★駐車場はありません。

「こどもシティ」は、みんなで「こどものためのまち」をつくり、はたらいたり、あそんだりして、たのしむイベントです。

「こどもシティ」の中には、本物のまちと同じように市役所や放送局、食べ物のお店、ゲームのお店などがつづられています。ここでは、お店でお仕事をして給料(ハッチ券)がもらえます。もらったハッチ券は「こどもシティ」の中のお店で買い物をしたり、あそぶために使うことができるので、お仕事とあそびをくりかえして、たのしくごせます！

※こうえんにあそびにきたひとたちすべてがあそべます。
(大人はお仕事はできません。ただし幼児の保護者はお子さんと一緒にお仕事をしてください。)
※無料(むりょう)であそべます。

主催: 児童館・こどもシティ実行委員会

共催: 東京都立小宮公園、八王子市立南大谷児童館・中野児童館

問い合わせ: 南大谷児童館 645-0482

【呼びかけ協力団体及び関係機関】

民生委員・児童委員【第1地区、第2地区、第7地区】、八王子お芋の会、小宮公園どんぐり会、中学校・小学校実行委員【第二中、ひよどり山中、中ノ原中、中野小】、大学ポスター【新国立大学文化研究部、創価女子短期大学、明星大学ポスター】、青少年対策第二地区委員会、青少年対策甲ノ原地区委員会、青少年対策ひよどり山地区委員会。

実施資料

じどうかん
児童館・こどもシティのやど

「児童館・こどもシティ」は、子どもたちが安心して遊べる場所です。
 開館時間は午前9時から午後5時までです。
 入館料は無料です。
 入館の際は、必ず「児童館・こどもシティ」のルールを守ってください。
 入館の際は、必ず「児童館・こどもシティ」のルールを守ってください。

開館時間は 11:00～15:00 です。

【注意事項】
 1. 児童館・こどもシティは、子どもたちの安全と健康を守るための施設です。
 2. 入館の際は、必ず「児童館・こどもシティ」のルールを守ってください。
 3. 入館の際は、必ず「児童館・こどもシティ」のルールを守ってください。

じどうかん
児童館・こどもシティ

じゅうみんびよう

児童館・こどもシティサービスハッチ券

10 10 10

ハッチ券

☆ ハッチ券を使いきったおともだちで、もっとハッチ券がほしい人は ☆

① 開館時間にお店に行き、児童館にアルバイトで働くおともだちを募集します。
 ② 児童館から仕事のやりかたをおしえてもらいます。
 ③ 15分のお店で働く時間は15分です。
 ④ ハッチ券(見習い)は、お店で働いてもらってハッチ券です。

⑤ 仕事を終わったら、児童館から児童館のこの館に
 ハッチ券を渡してもらってください。
 ⑥ ハッチ券を渡してもらった児童館をもって、児童館に行きまよう。

お店の名まえ	仕事を始めた時間	仕事を終わった時間	店長印	ハッチ券 見習い
1	:	:		
2	:	:		
3	:	:		
4	:	:		

いろいろな 仕事に 挑戦してみよう！



中野児童館
こどもシティ・店長マニュアル

店舗番号	店舗名	受入人数	種類
本4	わたがし屋	2人	飲食

大人実行委員名(店長)

子ども実行委員(副店長)

児童館ボラ

中学生

児童館ボラ

中学生

ブース備品一覧

品名	数	品名	数	品名	数
ドラムコード	1	看板 +求人票2	1	スタンプ	1
スタンプ台	1	整理券	250	ふきん(タオル)	5
ペン	2	長机	1	ビニール手袋	2
ザラメ	7kg	割り箸	250組	スプーン	2
消毒液	1	パイプ椅子	1	給食機	1
店長印、清印	1	割箸たて	1	発泡スチロール	1

このブースの詳細

・このブースはわたがしの製造・販売です。 わたがしは発着機1台で対応する
 ・混雑が予想されるので、並ばせる。並び順がわからなくなるので整理券を使用する。
 ・住民票のサービスハッチ券のわたがしのところにスタンプを押します。
 ・整理券を渡し、受け渡し場所に並んでもらう

店長さん(大人実行委員)へのお願い

・お仕事の時は、各店舗で行います。
 ・お仕事にきた子どもに求人票(名札)を渡して、仕事内容の説明をして下さい。年齢に応じた仕事内容(ハッチ券へのスタンプおし、給食機を渡す、お客さんの整理など)の配分は店長の判断にお任せします。
 ・お仕事にきた子ども、お客さんの子どもがきますので、列を分けて整理して下さい。
 ・一人の仕事時間は15分を原則としますが、状況に応じて多少の変更はお任せします。
 ・お仕事にきた子の住民票の裏に店舗名、仕事時間を記入し、店長印を押してあげて、15分働いた後、求人票は受けとってください。その後、銀行に行かせてください。



清掃事業所のアルバイトの様子



市役所のアルバイトの様子



中高生実行委員の活躍の様子



イベント会場の様子

実施資料

児童館・こどもシティタイムスケジュール

【必要な備品と購入価格】

活動に必要な備品や道具

・店舗の規模にもよるが、屋外で30店舗程度、600人の参加者と想定すると、

テント(8張:食品を取り扱うテントは衛生面で必要、屋外の場合は、各店舗にあるとよい。)

机(40台:各店舗に最低1台)

椅子(80脚:各店舗に最低2脚)

ブルーシート(10枚:雨天の際のカバーとなる。)

住民票(600枚)

ハッチ券(150枚)

アルバイト名札・求人票(100個)

大人実行委員、子ども実行委員名札(100個)

店長マニュアル(30部:30店舗分)

景品(4,200個:360個×子ども実行委員12店舗分、子ども一人につき100円程度換算)

ジュース、飲み物代(350本)

各店舗看板(30枚:30店舗分)

場内案内看板(トイレ、救護、本部、AED、避難経路他)

場内イベントPR旗(30本)

来場者整理のためのコーンとバーのセット(15セット)

各種店舗に必要な消耗品(各種)

筆記具(100本)、養生テープ(10個)、ビニール袋(100枚)、

掃除道具など各種

絶縁タイプの電気器用のドラムコード(5個)

放送アンプセット(2台)

わたあめ機器、ポップコーン機器(各1台)など

* 店舗ごとに必要備品を1箱に入れて、箱に表示をする

7:20	会場の決定	雨天時は、各団体へ会場の変更を連絡。
8:30	職員集合・準備開始	児童館より、各児童館車2台ずつで搬入。
		会場の設置。
		雨天時は、小宮公園に会場の変更の看板の設置。
9:00	学生集合	職員は指示し、学生と一緒に会場の設置を行う。
10:00	大人実行委員集合	各協力団体の顔合わせ＆打ち合わせ。
10:30	子ども実行委員集合	
	各コーナー準備	自分の担当コーナーを確認し、準備と練習をお願いします。
10:45	受付開始	市役所にて受付が開始。
11:00	こどもシティ開始	各店舗はアルバイトの受け入れとコーナーの運営をお願いします。
11:30	子ども実行委員前半終了	小学生は、はじめの30分が終わったらあそびに行きます。後半の時間を確認し、あそびに行くように促してあげてください。
12:00頃～	昼食(各自)	交替で昼食(各自持参)を様子を見ながらとってください。飲食コーナーをご利用いただけます。
		子ども(中学生)が交替であそびに行けるようにご配慮下さい。
13:30ごろ	交通安全	
14:30	市役所 終了	受付終了 来場者はこの日のハッチ券を16:00まで使えます。
14:15	アルバイト受付終了	20分のアルバイト時間があるため、アルバイトの受付は終了となります。
14:30	子ども実行委員後半	後半の30分は再度子ども実行委員が戻ります。
14:45	各店舗終了にむけて	混んでいる店舗は15:00で終了できるように、お客さんの調整をお願いします。
15:00	こどもシティ終了	各店舗は終了し、片づけをお願いします。来場者に気を付けてください。
15:10	子ども実行委員反省	子ども実行委員は集合し、反省会をします。
15:20	片づけ終了	反省 アンケート記入
15:30	解散	1日ありがとうございました。

【総予算】160,000円

* テント・机・機材・など初期購入費用は除く

◆消耗品費(主に参加者に渡す景品代、ジュース代、文具代、用紙代他) 100,000円

◆報償費(大人実行委員1人×500円、90人として:お弁当代) 45,000円

◆会場使用料 必要に応じて

まちの施設、お店の内容、アルバイト情報			
種類	お店の名前	アルバイト情報	
		仕事内容	募集人数
銀行	銀行	働いた人に50ハッチをホッチキスでつけます。	4
ハローワーク	ハローワーク	来た人にアルバイトの紹介をします。	4
市役所	市役所	受付に来た人に、住民票を発行します。	4
旅行代理店	パークレンジャー公園探検	一日一回だけ開催します。公園の仕事をします。	50
植物園・昆虫館	花畑、パッタ広場	ロープから中に入らないように管理します。	2
動物園	どうぶつふれあいコーナー	どうぶつのふれあいの注意を案内します。	2
児童遊園	ゆうぐ		2
カフェエリア	わたあめ屋（先着順）	わたあめを配ったり、わたあめ券にハンコを押します。	2
カフェエリア	ポップコーン（先着順）	ポップコーンを配ったり、ポップコーン券にハンコを押します。	2
カフェエリア	ドリンクスタンド（先着順）	ハンコを押したりドリンクを渡します。	2
商店街	みそ汁	みそ汁を配ったり、みそ汁券にハンコを押します。	2
商店街	ソースせんべい	ソースせんべいを作ったり、ハンコを押します。	3
商店街	ラーメン	ラーメンを作ったり、ハンコを押します。	3
商店街	小物や	小物を売ったり、ハンコを押します。	3
商店街	駄菓子屋	おかしを売ったり、ハンコを押します。	3
劇場	人形劇	募集なし	募集なし
児童館	ぶんぶんゴマ工作	ぶんぶんゴマを作るキットを配ったり、ハッチ券にハンコを押します。	3
児童館	おもちゃランド（幼児コーナー）	ハンコをおしたり、30ハッチを渡します。	3
児童館	お手玉・あやとり	募集なし	募集なし
電車・駅	電車	ハンコを押したりします。	3
パーキング	自転車おきば、バイク置き場	自転車の整理をします。ハンコを押します。	3
放送局	スタジオ放送局	アナウンスをしたり、お店のアナウンス情報の取材に行きます。	3
交番・警察	交番（警察）	公園内で落し物やけがやトラブルがないかパトロールに行きます。	3
病院	病院・診療所	怪我や体調の悪い人の対応をします。	3
清掃	清掃社	公園内のゴミ拾いと店舗からゴミをあつめてきます。ゴミを分別します。	3
遊園地	さかなつり	ハンコを押したり、さかなつりの手伝いをします。	3
遊園地	虫たたき	ハンコを押したりゲームの手伝いをします。	3
遊園地	ストラックアウト	ハンコを押したりゲームの手伝いをします。	2
遊園地	くじや1代目	ハンコを押したりゲームの手伝いをします。	3
遊園地	すらいむくじ	ハンコを押したりゲームの手伝いをします。	3
遊園地	しゃてき	ハンコを押したりゲームの手伝いをします。	3

29年度2ブロックシティ必要物品一覧

*お菓子1店舗 350(10円50を用意、5円から8円を300)

*テント足おさえ用の土嚢を4張り分とコーン、ポール公園から借用、も借用

店舗名 (●お菓子必要)		備品・消耗品				
1	バンク	看板1 はさみ1個 ビニール袋45010枚	ハッチスタンプ8個 マニュアル1 ビニール袋70010枚	ペン3本 求人票4個 鉛筆30		テント1役所と共同① 椅子3 机3
2	市役所	住民票600枚 参加者名簿8枚 締めめ機 2台	看板1 集計用紙1枚 マニュアル1	マニュアル1 決裁紙10個 看板1	ペン2本 ペン3本	住民票取替 テント1銀行と共同① テント1ポットコーンと共同②
3	わたがし屋	雑巾10枚 タオル6枚 ポップコーン器1台	ブルシ 大1枚 アルコール消毒液1個 ブルシ 大1枚	粗目 7kg 手袋50個 ドラムコード1台	割箸250本 マスク20個 ペン3本	ドラムコード1個 求人票2個 テント1わたがしと共同②
4	ポップコーン	コーン(たね)5kg タオル6枚 どんぶり300個	スプーン3個 アルコール消毒液1個 下敷き10枚	ビニール8号400枚 ビニール袋45010枚 ペン3本		求人票2個 椅子1 机2
5	工作	木工用ボンド20本	マジック30本	看板1		
6	交通安全	看板1	ブルシ 大2	講習修了書		机1 マニュアル
7	パークレンジャー	調査用紙50枚 お菓子350個	虫かご30個 虫網30本 看板1	鉛筆50本 修了書50枚 求人票3個	消しゴム1個 ペン2本 ペン3本	椅子1 椅子1 机1 椅子2
8	●じゃんけんや	マニュアル1				
9	シャボン玉	看板1 合成洗剤250ml入り 5本	バット1個 PVAのり8本	ペン3本 雑巾10枚	求人票3個 モール100	机1 椅子1
10	おもちゃランド	ハッチスタンプ3個 ブルシ大1枚	おもちゃ、ボール ござ8畳1枚	ペン3本 座卓1台	マニュアル1 求人票3個	テント1お手玉と共同⑤ 看板1
11	お手玉・あやとり	マニュアル1 ブルシ大1枚	お手玉 ござ8畳1枚	ペン3本 看板1		テント1おもちゃと共同⑥ 座卓2
12	のりもの (自転車)	看板1 コーン4個	機材一式(電車、自転車) コーンバー4本	ペン3本	求人票3個	机1 椅子1
13	ずらいむつきんぐ	ラメ、スプーン5個 赤、青、黄 各1食紅	お題(箱入り)1個 ビニール9号350枚	ペン3本 求人票3個	バケツ1個 マニュアル1	ほうき(500g×2個) PVAのり10本
14	ヨーヨー&スーパーボール	ヨーヨー(留め具付)150個 スーパーボール 大100個	たらい 1個 スーパーボール小200個	ペン3本 求人票3個	バケツ1個 マニュアル1	景品(スライム)100個 椅子2
15	●魚釣り	看板1 魚100匹	お菓子350個 ブル1個	ペン3個 釣り竿5本	求人票3個 マニュアル1	ストップウォッチ1個 椅子1
16	スタジオ放送局	アンプ・マイク 放送用紙	ドラムコード 求人票3	鉛筆 看板	ペン3 マニュアル	求人票3 椅子1 椅子2
17	審判・診療所	案内図 救急セット			ペン3 看板	机1 マニュアル 椅子1
18	清掃社	ビニール袋450 10 ちりとり ビニール袋700 10	求人票3 火バサミ	ペン3 看板 求人票3	ペン3 マニュアル ほうき	竹ぼうき 軍手 椅子1
19	●ストラックアウト		求人票2 ボール5個	ペン3 ブルーシート大1	求人票3	お菓子350個 手作り・もちよりの景品80個
20	●くじ	スタンプカード350枚 マニュアル1	求人票3個 看板1	ペン3本 景品番号表1	的4個 スーパーボール	求人票3個 お菓子350個
21	●ボーリングくじ	ボーリングピン 14本 本体(段ボール)1個	景品(スライム) 80 景品(スライム) 80	ペン3 求人票3	ボール(大・中・小)各1 マニュアル	お菓子350個 椅子2 椅子1
22	●しゃてき	求人票3個 割り箸鉄砲3個	的8個 わゴム50本	ペン3本 景品80	マニュアル 段ボール1個	お菓子350個 椅子2
23	●わなげ	求人票3 輪投げの輪10本	ペットボトル10本 ひも1本	ペン3 看板	求人票 マニュアル1	お菓子350個 ガムテープ1個
24	●UFOつり	求人票3個 つりざお 3本	宇宙人のセット 1組 平たい台 1台	ペン3 ストップウォッチ1個	看板1 マニュアル1	お菓子350個 椅子1 椅子2
25	●棒つかみ	求人票3個 棒つかみ用の棒 1本	看板1 マニュアル1	ペン3本 求人票3個		お菓子350個 椅子2
26	●ことばえらび	求人票3個 「五十音」の書いてある缶	ブルーシート 小1枚 コマ台 1台	ペン3本 ストップウォッチ 1個	ペン3本 マニュアル1	お菓子350個 椅子2
27	●ディスクのあて	求人票3個 ブルーシート小1枚	ペン3本 看板1	ペン3本 マニュアル1		お菓子350個 椅子1 椅子1
28	●けいひんくいす	求人票3個 クイズ問題、本	クイズ番号を決めるくじ 景品入れる箱1箱	ペン3本 はさみ、セロテープ	水糸1 マニュアル1	お菓子350個 看板1 椅子2
29	●しゃてき&くじ	求人票3個 ぬいぐるみ	割箸250 輪ゴム	ペン3本 看板1	座卓1台 マニュアル1	お菓子350個 景品(スライム)80個 椅子2
30	●ころころびんご	求人票3 カブセル1個	ガチャガチャ本体 1個 ビー玉10枚	ペン3本 マニュアル1	スマートボール本体1台 景品80	お菓子350個 看板1 椅子2
31	ドリンクスタンド	缶ジュース350個 ビニール袋450	雑巾10枚 タオル6枚	アルコール消毒1本 求人票2個	ペン3本 看板1	マニュアル1 椅子1 椅子2
32	本部 (全体)	マジック(太)10本 マジック(細)10本 実行委員名札100 すずらんテープ 蚊取り線香20個 はさみ10本 立ち入り禁止表示5枚	ビニール袋450 10 ブルシート大1枚 アンケート用紙100枚 トイレ用ペーパー5個 コピー用紙50枚 カメラ1台 案内図(配置図)10枚	鉛筆100本 タオル3 配布資料50枚 ティッシュ5個 画用紙50枚 養生テープ20 アンプ2台 大時計(中野)2	鉛筆100本 タオル3 ティッシュ5個 トランシーバー4 単3電池20本 ドラムコード5個 雨用ブルシ大10(南大谷)	ガムテープ30個 雑巾30枚 実行委員用あめ300個 立て看板大3 休憩所テント2④⑤ パークレンジャーテント1③ 真ん中の休憩所ブルシ大1(中野)
	駐車場	ブラカード1 ござ8畳3枚	トランシーバー1 持参	看板1 ブルシ小10枚		椅子1 机計35 レンタル35 レンタル50
	備品手配場所	名札赤、黄色各100個 締めめ機1台 シートの旗30本	共同倉庫 共同倉庫 共同倉庫	ブルシ大10枚 ゼッケン赤(中野)6枚 トランシーバー10個	持参 持参 共同倉庫	椅子計50 テント5 座卓4台

実施資料

【反省会・評価・次年度への引き継ぎ】

- * 引き継ぎを受けて各会場で改善してきた事例
- (ア) ハローワークでアルバイト紹介をしないで、各店舗で求人をする。
- (イ) 通貨(ハッチ券)を発行しないでスタンプを押す形式にする。
- (ウ) 変わらない継続的な老舗と毎年変わる遊戯施設があるため、仮想のまちの店舗も毎年すべて初めから検討せずに継続的な店舗を残す形式にする。
- (エ) 商店街の本物の店舗を活用するなど地域の実情に合わせて実施する。
- (オ) イベント案内チラシに住民票引換券や住民票をつけるなど市役所の住民登録の簡素化と迅速化を図る。
- (カ) 開催日までに住民票引換券を児童館窓口で発券し、事前に参加者の確定と定員制限をする。

【実施の上で運営のポイントや工夫】

- ① ハローワークの機能と人数割り
- (ア) 参加者のアルバイト希望をかなえるために、アルバイト待ちの並ばせ方や求人の仕方を臨機応変に対応する。
- ・アルバイト先の店舗ごとに待ち列をつくることで、待ち想定時間想定が出来るようにする。
- ・待ち列を作り、先頭から希望店舗のアルバイト求人がでたら優先して受けられるようにする。

- (イ) 理想のローテーション換算
- 例) 300人の子どもが参加していたら
- a. ハッチ券を使用して遊んでいるお客 100人
- b. アルバイトをしている人 100人
- c. アルバイト紹介待ちでハローワークに並んでいる人 100人
- ★このa～cがローテーションすることが望ましい。

- ② 住民票と祭り通貨(ハッチ券)
- (ア) 住民票は祭りの参加証明書とともに「お財布」でもある。紛失する子どももいるので、戻ってくるように名前や受付番号表記をする。
- (イ) 会場内は、基本的に無料店舗は設置せずに、ハッチ券のみが使える店舗だけし、ハッチ券を使い切ったら終了とする。

- ③ 景品や駄菓子の配分
- (ア) 各店舗に景品を置くためには、参加人数想定・ハッチの最大保有数・店舗で遊ぶハッチ券の単価から必要数を割り出すようにする。
- (イ) 各店舗で景品を渡さずに、「景品交換所」をつくり、交換券で交換をできるため、好きな景品を選ぶことが出来る。また、景品交換所にもアルバイトが配置できる。

【発展形式の商店会、企業を巻き込んだイベント例】

地域の商店会や企業から協力を得て、アルバイト先として実際のお店で受入れをしてもらう。

事例①

地域の2つの商店会が協力、20店以上でアルバイトを受け入れている。会場は商店会が管理する場所を借用してまつり会場としている。

事例②

12階の建物内の企業体が協力、各テナント20店以上でアルバイトを受け入れている。建物内にあるホール等を借用してまつり会場としている。

事例③

景品の一部や会場使用料等を商店会や企業から協賛を得ている。

事例④

児童館では当日運営をする大人実行委員にお弁当の用意をしているが、商店会や企業から助成を受け、お弁当をランチ券に変更して、商店会の飲食店でランチを食べられるようにしている。



商店街の実際の店舗でアルバイト体験をする子どもの様子

23 子ども食堂

子どもたちの自立と生きていく力を培う

子どもたちが大人と一緒に食事を作り、その経験を通して自立や生きる力を育むプログラムです。児童館ならではの遊びや学びを通し、生産者や食材に対する感謝の気持ちや物の大切さ、思いやりを持つことができ、また活動を通して地域との交流が生まれます。

【リーダーチャート】
スタッフ:3
地域:5
福祉:4
参画度:4
取り組みやすさ:4

ねらい ▶ 子どもの育ちにどう関係するのか？

- 食事を十分に取れなかったり、料理の仕方を知らなかったり、保護者が忙しくて独りで食事をしている子どもたちが大人と一緒に食事を作り、共に食べることで、自立する力を身に付け、みんなで食べる食事の美味しさを知る。
- 余っている食材を有効に利用する「フードドライブ」や、まだ食べられるのに捨てられてしまう「食品ロス」について学び、生産者や作ってくれる人への感謝の気持ち、物の大切さや思いやりを学ぶ。
- 地域・学生ボランティアによる学習支援や遊びの交流を通して子どもたちが経験や知識を得たり、地域が一丸となり、子育て支援を行う体制を築く。

実施条件 ▶ 必要な「人」、「こと」、「もの」など

【対象年齢】 0～18歳、すべての利用者

【参加する人数の目安】 何人でも可

【必要なスタッフ数】 参加する人数による。

- ・大人子ども合わせて100人以下の場合、職員3名・調理・遊びボランティア6人～10人くらい。
- ・普段から児童館を利用している子どものみ20人程度の場合、職員3名・調理・遊びボランティア1人～2人くらい。

【設備/環境】 キッチン

【実施時期】 子ども食堂開催の日時については通年可
※初回は、3か月前から、地域との連携会議、食材集め、ボランティアとの連携などを行う。
※2回目以降は、1か月前から、開催日の告知、参加者募集、内容決定などを行う。

【備品/道具】 100人規模で開催したときの備品

- ★調理器具(大鍋50人用×2、一升炊き炊飯器×2、フライパン、水切りザル、ボール大小、食器洗いかご、お玉、菜箸、バット、大皿、トレイなど)
- ★食器(取り皿、汁椀、箸、スプーンなど人数分)
- ★食材(フードドライブ、寄付、その他の食材費(3000円/1回))
- ★消耗品(ゴミ袋、キッチンペーパー、紙コップ、台拭き、ふきん、洗剤など)

【総予算】約5000～70000円(既存の厨房施設にある備品、食器等を借用できる場合は、消耗品と食材のみで開催可能)

事前準備

立ち上げ準備 (初回のみ必要な準備)

※開催日の3か月前から準備を開始します。

◆取り組みに至ったプロセス

- ・食事を含めた生活習慣が気になる子どもたちの存在(偏食や孤食による栄養不足、食べ物を大切にできないなど)
- ・成長期における食事の質の重要性を学ぶ中、子ども食堂イコール貧困対策というイメージを持たせないために、すべての子どもたちが大人と一緒に食を学び、遊び、食べて、成長できる場を作りたいという気持ちからスタート

◆児童館内で打ち合わせを行い、計画書を作成します。

- ・ほかの地域での食堂の実態と調査
- ・地域の子どもの現状と様子
- ・児童館として開催する意味と目的の共有
- ・計画書の作成

◆地域への提案、打ち合わせを行います。

- ・アレルギー事故や食中毒などの対策
- ・参加対象者、定員、運営費、会場、開催回数などに関する問題点の洗い出し
- ・地域への協力依頼(ボランティア、会場設備、光熱費、広報など)。

◆開催日時・会場を決定します。

◆食材を確保します。

- ・市場や食品加工会社などへ協力依頼
- ・フードバンクからの提供
- ・地域町会からのフードドライブ
- ・参加者からのカンパなど
- ※当館では公設市場2社、食肉加工卸1社へ依頼

◆各種ボランティアを集めます。

- ・調理ボランティア
- ・学習支援ボランティア
- ・遊びボランティア
- ・音楽ボランティア など

◆参加対象、参加費用、申し込み方法を決定します。

- ・参加人数や会場規模により、参加対象者を決定する
- ・運営費を試算して参加費を検討
- ・アレルギー事故防止や運営責任を明確にするためにチラシを作成し、書面による申し込みを行う
- ※申し込みチラシの例は「実施資料」を参照

当日までの準備（2回目以降から必要な準備）

※開催日の1か月前から準備を開始します。

- ◆食事メニュー、遊び・学習の内容を検討します。
 - ・メニューは人数の増減に対応できるものにする（例：カレーライス、おにぎり、豚汁など）
 - ・遊びや学習については、調理手伝いから調理完成の間に行うため、集団遊び・昔遊び・宿題やコンサートなど、三世代が関わることを考える

- ◆開催に向けて必要なグッズを作成、用意します。
 - 申し込みチラシ、プレスリリース、受付名簿、名札、タイムテーブル、食材依頼書、招待状、カンパ箱、アンケート、エプロン・三角巾、垂れ幕、設営看板

- ◆広報・告知活動を行います。
 - ・新聞社へプレスリリースの送付
 - ・小学校を通して全児童家庭へ申し込みチラシ配布
 - ・町会回覧版での告知
 - ・食材協力者への招待状

- ◆参加人数を決定し、食材の手配をします。
 - ・提供者、フードドライブへの手配
 - ・不足食材の購入
 - ・調理担当ボランティアとメニューの打ち合わせ

- ◆子ども、職員、ボランティアの役割を決定します。
 - 《子ども》
 - ・制作物担当、調理担当、会場づくり、掃除、片付けなど
 - 《職員、ボランティア》
 - ・遊び担当、学習担当、調理担当、取材の対応、買い物など

- ◆事前学習として食品ロスやフードドライブについて学びます。
 - ・職員が学んだり、子どもたち自身が調べた内容を日々の児童館活動や開催日に学びあう

進め方

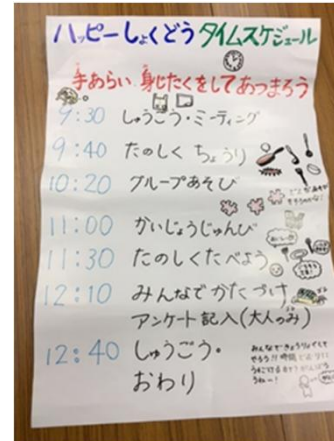
①会場集合・受付を行います

- ・受付担当が名簿をもとに参加者をチェック
- ・参加者は名札・エプロン・三角巾を付ける

※事前申し込みのない子どもが来てしまった場合は、当日に保護者の許可を得た上で参加できるようにします。

②ミーティングを実施します

- ・1日の流れと役割を確認



タイムスケジュールの例

③会場を準備します

- ・垂れ幕、机、調理器具、カンパ箱、アンケートを準備

④調理を開始します

- ・調理ボランティアは、会食開始に間に合うスケジュールで事前に調理をスタートしておく
- ・子どもたちは野菜洗いや皮むき、切る、お米研ぎ、調味料を混ぜるなどの簡単な調理を行う。



調理の手伝いをしている様子

⑤遊び・学習タイム

・調理の待ち時間を使って、集団遊びや学習支援を行う。



←三世代での集団遊びの様子



学習の様子→

⑥配膳の準備をします

・遊びの片づけ後、手洗い、食事用機の設置、取り皿、箸の配置、食事の盛り付けを行う。



会場配置の例

⑦会食を始めます

・食材提供者、調理者の紹介
・地域代表、開催責任者のあいさつ
・大人と子どもは同じテーブルにつき食事を開始



子どもと大人が向かい合って座っている様子

⑧片づけ・清掃を行います

・全員で机、食器の片づけ、清掃を行う
・厨房や食材の片づけは大人が中心になって行う
・手が空いた参加者(大人)にアンケートを記入してもらう

開催後

参加した大人たちに行ったアンケートや、子どもたちからの聞き取り、カンパ、会計帳簿をまとめ、館内で反省会を行い、情報を共有します。その後、開催報告書、食材提供者へのお礼状を作成し、館内に開催写真を掲示します。

ポイント

◆開催地や規模、食事代の有料・無料によって届け出の規程が異なるため、開催前に市町村の保健衛生関連の条例を確認しておきます。また、衛生管理士や調理師の資格保有者をスタッフに入れます。

◆運営に携わるボランティア・支援者との連携、打ち合わせを密に行って、具体的な作業内容を依頼します。
(例： 町会ボランティア部会→食事作り、民生委員と一般参加者→遊び相手と配膳)

◆タイムテーブル・看板・招待状作りなどの事前準備の手伝いや、受付・会場準備・調理・配膳・片付けなどの当日の役割分担を、子どもたちの参加型にします。

◆調理補助や調理の待ち時間に行う遊び、学習などを通して、食事の楽しさ・美味しさだけでなく、経験と知識を持ち帰ることができるようにします。

(例： 調理補助、フードドライブや食品ロスの講演、読み聞かせ、学習支援や集団遊びなど)

◆食事中は子どもたちの日頃の生活の様子を聞くことができる機会であるため、大人と子どもは一緒に食事をして、食事の仕方や食べる量などを見ておきます。

◆配慮が必要な子どもが気兼ねなく来られるように、個別に声かけをするなどします。

◆地域と連携を取り、信頼関係を深めるようにします。寿台では、地域行事への積極的な参加、館行事への招待、運営委員会などで情報交換を行っています。小規模児童館では、衛生面や設備面で食事提供が難しいケースがありますので、地域施設を利用したり、地域ボランティアの協力を得ることで開催が可能になりました。



安全への配慮

◆食物アレルギー・参加中の事故防止のため、子ども本人からの自己申告だけでなく、保護者には必ず申込書に記載してもらい、承諾を得るようにします。

◆参加中の事故への対策のひとつとして、ボランティア行事用保険に加入します。

◆食中毒防止のため、職員ならびにメインの調理者は定期的に(2ヶ月に1回)検便、毎回検食を行います。

発展

◆ハッピー弁当

フードドライブ活動中に、大人でもご飯が作れず食べられない人がいることを聞き、子どもたちが将来生きていく力を付けるための自立支援を目的としたプログラムです。子どもが「自分で考えて自分の弁当」を作ることで、ソーシャルスキルを高め、自分自身で生活環境を切り開く力を付けることができます。全く刃物を使わないメニューからスタートして、刃物→火→フライパンと一つ一つステップアップしながら、約2か月一度の間隔で調理実習を行います。

【調理内容の例】フォークで卵サンドづくり、一番だしをとって作る味噌汁、子どもがメニューから考えるお弁当づくりなど。最終回はグループに分かれて自分たちで決めたおかずのお弁当を作り、お世話になった人に食べてもらいました。H28.4月～H29.3月に実施しました。



調理の様子

◆わくわくハッピーワールド

ハッピー弁当の継続活動として、H29.4月より実施しています。調理を覚えた子どもたちとともに、世界の国を学びながら年4回、調理体験を取り入れた活動です。外国籍の子どもが多い地域のため、自分と違う考えや文化の人たちを理解し、差別や偏見をなくし、いじめ防止や人権を思いやる気持ちを育てる目的で開催しています。

【活動内容】国旗あてクイズ、子どもが先生役の中国語講座、ブラジルの方に教わる本場のおやつ作り、興味ある国を調べるわくわくハピノート作りなど



調べたい国を
国旗から選ぶ
子どもたち

◆さんかくおむすびくらぶ・どうようおむすびくらぶ

「子ども食堂」を毎月開催してほしいとの要望から生まれ、児童館、子ども、地域の三者を「三角」に見立てて、おむすびを食事に取り入れた「学習支援＋食」の活動です。調理ボランティア、講師を地域ボランティアに依頼し行っています。

平成29年度、松本市では「子どもの未来応援事業」として子どもの居場所づくりの支援をスタートしました。おむすびくらぶは、この交付金を利用し開催しています。

【活動内容】小学生高学年、中学生に対応した講師付きの学習支援を週1回、小学生全学年対象にした寄り添い型の学習支援を月1回、H29.4月から行っています。



学習会の様子

◆食品ロス、フードドライブ活動

子どもたちの話し合いや出前講座を通して、「食べられること」のありがたさと、今も食べられない人がいることを学びながら、子どもたち自身が考え活動をしています。

【活動内容】

・H28.5月より、公設市場との連携で、食べられるけど売れない食材をいただき、利用者の家庭・近隣・おむすびくらぶ・こども食堂で活用しています。

・子どもたちが自分の言葉で創作絵本を作成して、こども食堂や夏休みの公民館お話し会、保育園での話し会、いどう児童館、子どもの居場所づくりシンポジウムなどで読み聞かせをして地域の人とも食品ロスについて共有しました。



創作した絵本を
読み聞かせて
いる

・福祉ひろばにもフードドライブの箱を置いて、地域の方々にも協力してもらっています。届いた食品は、生活困窮者を支える団体への寄付とこども食堂で活用しています。

◆地域の高校生ボランティアとの連携

子どもたちと関わる仕事を目指す若いボランティア育成のために、市内の高校へのボランティアを依頼しています。実体験を通して、子どもとのコミュニケーションの仕方を学んでもらいながら子どもたちにも年が近い人たちとの遊びを体験してもらいます。

コンタクトの無い学校については、まずスポット的なボランティア依頼から始め、また、ボランティア募集ポスターの張り出しを高校に依頼しています。夏休みのボランティア依頼がきっかけとなって、現在、部活動として週1回児童館へ活動に来ている方もいます。

【活動内容】子ども食堂・ハッピー弁当など行事の補助や普段の児童館での遊びのボランティア

* 参考資料1

子ども食堂の内容と参加人数

開催日	開催内容	人数
1回目 H28.3.26	カレー、カレーゲーム(食材カード集め)、 手作りすごろく大会	65名
2回目 H28.6.20	東北の料理、自分の手で握るおにぎり、 松本市出前講座「地産地消と市場」	64名
3回目 H28.8.3	夏休みBBQ大会(リクエスト)、学習支援、 縁日	48名
4回目 H28.8.19	ハッピーモーニング食堂 サラダ、ゆで卵、 スープ、トースト、学習支援	31名
5回目 H28.8.27	あんかけ丼とトン汁(リクエスト)、学習支 援、ハーブ体験教室	43名
6回目 H28.11	郷土料理の伝承「おやき教室」	36名
7回目 H29.3.25	春休み企画 カレー、カレーゲーム	55名
8回目 H29.6.24	手巻き寿司(リクエスト)と昔遊び	62名
9回目 H29.8.5	ハッピーモーニング食堂 ご飯、味噌汁、 納豆など和食バイキング、学習支援	19名

【プログラムアドバイザー】
長野県松本市 寿台児童館
竹内亜哉 設楽秀子